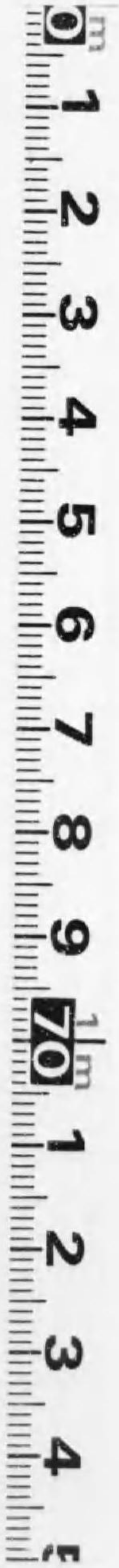


522

24

176



始





The Comedy of Errors.

The Two Dromios.

Dro E: "Methinks you are my glass, and not my brother,
see by you I am a sweet-faced youth." (V. i., p. III)



のり

坪内逍遙
譯

15. 10. 14

内交

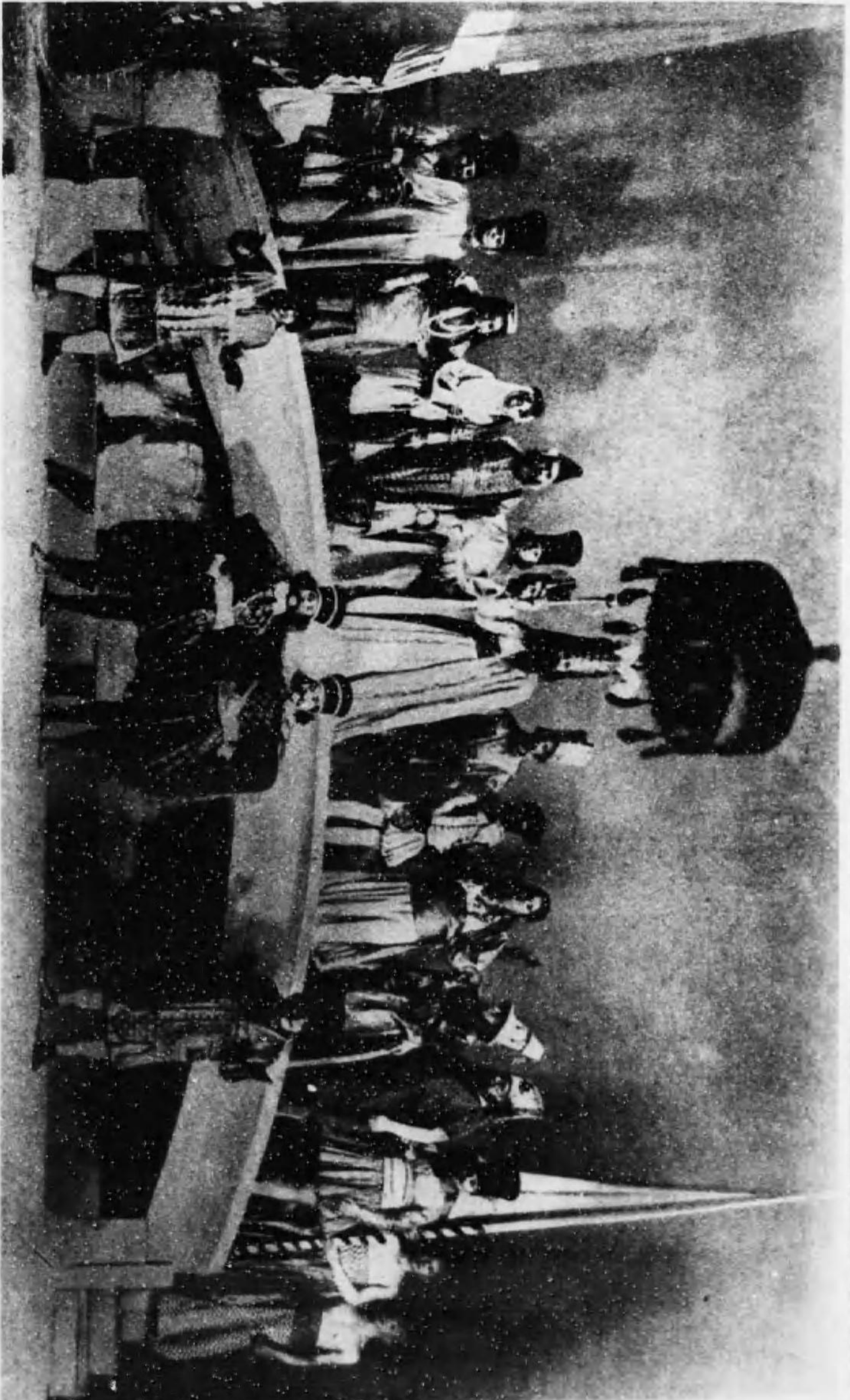
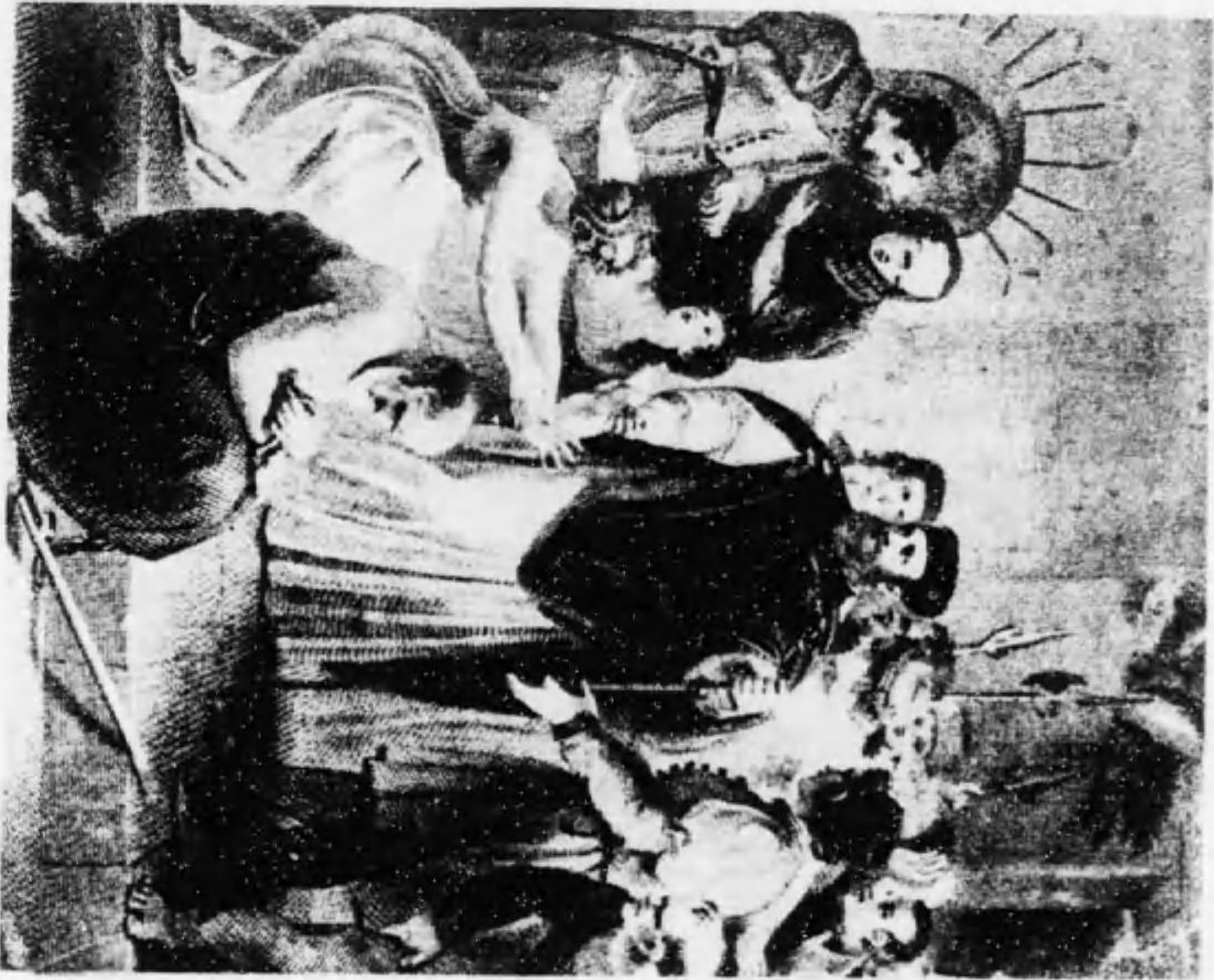


Photo: Zander & Lohs, Berlin

The Comedy of Errors.

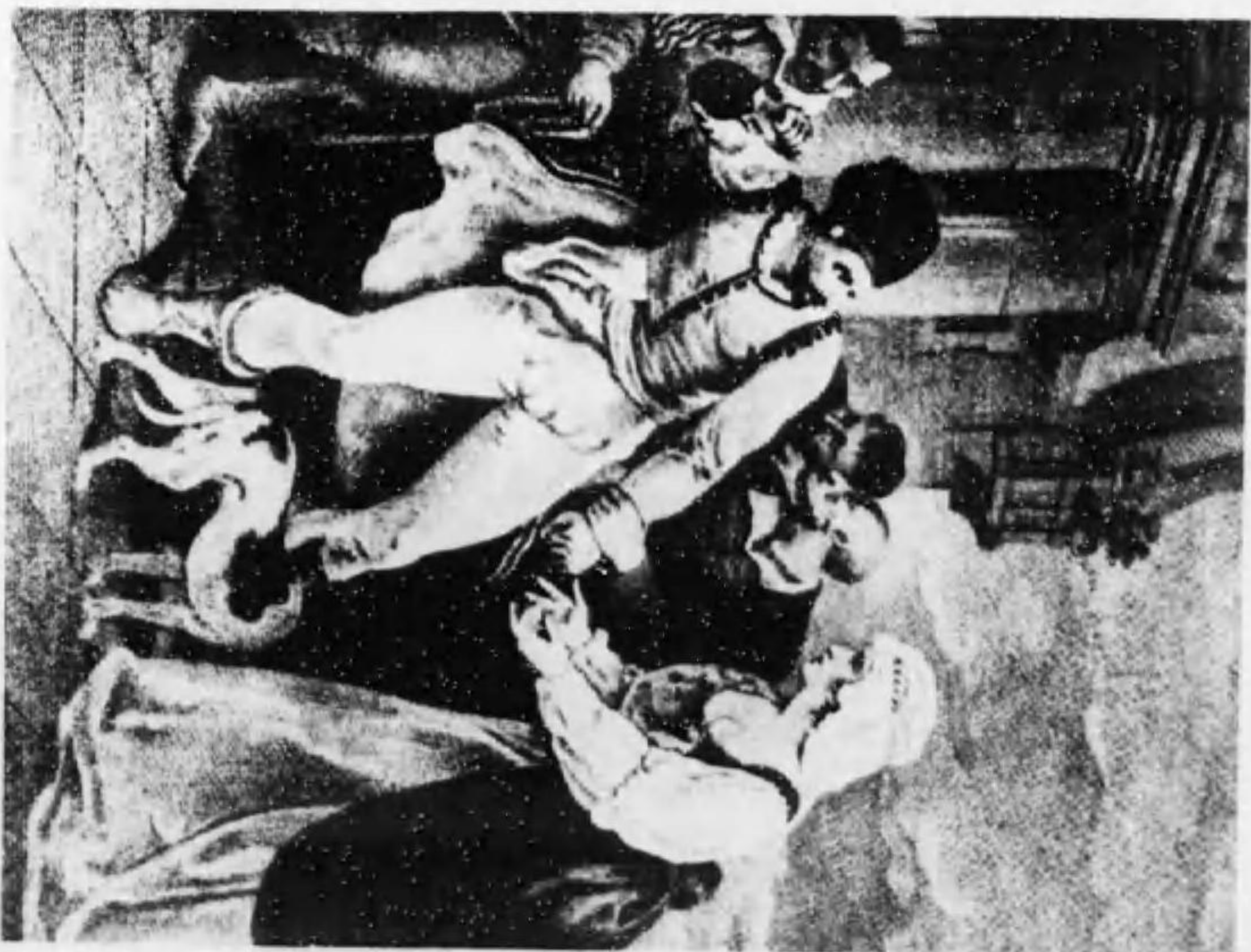
The Final Scene (as produced at the German Theatre, Berlin)

Duke: "The two Anti-husbands, those two so like,
And these Dromios, one in semblance." (V. i., p. III)



From the painting by T. Suckford, R. A.
"The Comedy of Errors?"

Adm. "Justice, most sacred duke, against the abbess!"
Act V., Sc. I.



From the painting by F. Wharton, R. A.
"The Comedy of Errors?"

Adm. "O husband, God doth know you dined at home?"
Act IV., Sc. IV.



"I tied my youngest son to the end of a small spare mast."

Act 1. Scene 1.

522-176

~~517-441~~

縮言

此作は、最も早く、義譯ではあつたが、全譯されてわが國へ紹介された沙翁戯曲の隨一である。『鏡花水月』(渡邊治譯)と題したのがそれで、明治廿一年に出版された。次ぎに同三十年前にもまた風葉(?)の譯で『花あやめ』(?)といふのが出てをり、同四十一年には戸澤、淺野二氏の共譯で、『行違ひ物語』と題したものが出てゐる。此うち最終のが一等忠實な譯でもあり、比較的誤譯も尠く、能

狂言語調の譯文の出來もよいはうだが、地口や語呂を譯するには惱んだものと見えて、數々省略し、時としては原文で一ページも飛ばしてゐる。

同じく早く紹介されたものゝうちでも、「ジュリヤス・シーザー」は明治十餘年代の少、青年間に於ける政治熱に促されて譯されたのであり、「ロミオとジュリエット」は、いつもかはらぬ性問題や戀愛興味が然らしめたのであるが、「エニスの商人」の法廷の場や此作が紹介されたのは、主として其筋の面白さが一般の嗜好に適しさうであつたからであらう。

普通に笑劇と譯されるファース式の喜劇は、沙翁の出世以前から、廣くイギリスにも、大陸にも行はれてはゐたが、それらはいづれも幼稚なか蕪雜なかで、多くは現在の會我のや一派のものよりも劣つてゐたといつてよい。沙翁の作にも、明かに其系脈を牽いたものがあるが、さすがに彼れ以前の諸作に比べると、大きな選庭がある。例へば、「ウインゾアの陽氣な女房」や「じやく馬馴らし」がそれである。此「間違つゝき」の如きも其一つだが、彼れが作者になつたばかりの時の習作であるだけに、特に注意して覽る價值がある。

從來、此作は、それがファースであるといふことゝローマの名作家プロータスの作の改作に過ぎないといふことゝが原因で、沙翁學者間に輕視されてゐた。けれども、後に引抄するエドモンド・ゴッス氏の批評にもある通り、技巧上から見て、さすがに侮りがたい點があり、随つて作家としての沙翁を跡附ける料としては等閑にしがたい作である。詰り、舊式の沙翁論評は、とかく舞臺藝術の實際を逸視して、讀み物としてののみ、彼れが作を是非してゐた。沙翁の評価も將來は全く其標準を取換へて見ねばならぬ。

此作の初版は、例の一六二三年のフロリオ版に收められたのがそれで、その以前には刊行されてゐない。右のフロリオ版のは、多分、作者自筆の稿本から直に印刷に附されたものだらう、とアーデン版沙翁集の註者カニングハム氏は推斷してゐる。其書きおろし及び初演の年月は、共に明確には分らない。が、彼の一五九八年出版のフランシス・ミーヤズの著『*Palladis Tunicæ*』（智慧の寶庫）中に次ぎの如き文句がある。

プロータスとセネカがラテン人間に喜劇、悲劇の無上の作家と考へらるゝ如く、シェイクスピアは英國人間に

此二様の劇に最も秀でた者とせらる。喜劇は、其「ゼローナの二紳士」、其「間違ひ續き」、其「戀の骨折損」、其「戀の骨折效」、其「眞夏の夜の夢」及び其「ゼニスの人」を證とすべく、悲劇は、其「リチャード二世」、「リチャード三世」、「ヘンリー四世」、「ジョン王」、「タイタス・アンドロニカス」及び其「ロミオとジュリエット」を證とすべし。

此作が「戀の骨折損」よりも前に、二番目に擧げられたのは、記憶の偶然に外ならぬのかも知れないが、詞致の上から見ても、又作中に暗示された時事の當込みなどから考へても、初期の作らしく推測される。時事の當込

みといふのは、第三幕第二場のシラキユースのドロームイオーの白中セリフに見えるフランスの内亂のそれである。時の佛王アンリ三世がナプールのアンリを其嗣と定めたのは一五八九年、其嗣が王位を繼いだのは一五九三年で、内訌最中といふのは前王の死後即ち一五九一年頃である。其際英女王エリザベスは、ナプールのアンリを助けるために、伯エセックスに命じて援軍をフランスに送つたといふ史實がある。ドロームイオーの駄洒落は明かに右の内亂を指したのであるから、多分、九十一、二年頃であらうといふのだ。即位後に書いたとしては其當込みが利かない筈である。

初演も多分其一五九一、二年の冬であつたらうといふ。これも臆測たるに過ぎない。

此脚本は、原語では、いつも *The Comedy of Errors* とあつて、直譯すれば「度々の間違ひの喜劇」なのだが、ミイヤズは單に “*Errors*” 即ち「間違ひつゞき」とばかり呼んでゐる。他の例から推して考へて、喜劇といふ語が添はつたのは、むしろ偶然で、沙翁のは、他の類作と區別するためには、はじめは單に “*Errors*” とばかり呼ばれてゐたらしい。

材源は普く知れ渡つてゐる通り、プロータスの「二人メニ

クマス」“*Menechmus*.” が主で、經で、同じ作家の「アムフィトリオン」“*Amphitryon*” が従であり、緯である。前者は酷似した學生の二紳士が幼時に別れて全く異なつた地で育ち、互ひに豫期しないで同一市内で落ち合つたところから、該市に永住してゐた一方の紳士の家人や知人が外來の紳士を見誤る、又外來の紳士の僕は該市の住人の紳士を自分の主人と見ちがへる、そこからして種々の笑ふべき複雑な葛藤や衝突が惹起されるのを筋としたもの。又、後者は、天神ジュピターが故あつてシープスの一將軍に化現し、同時に使ひ神マーキュリーを其従僕に變形せしめて、

該將軍の邸に宿泊する、そこへ斯くとは知らないで主人公の將軍が歸つて來るが、家人は却つて之を疎外して入れないといふ同じく間、ちがひにもとづくをかしみを主としたものである。沙翁は、多少ラテン語をも讀み得たのであるから、これらの作意を、或は直接に原作から攝取し得たかも知れない。但し右のプロータスの「二人メニクマス」は、沙翁の出世以前に、イギリスでも大陸でも既に翻譯されたり翻案されたりしてをり、また一五七六年及び同七七年にはセント・ポール院の寺童らがハムプトンコートの新年限興として夜間に「間ちがひの話」といふ劇

を演じたといふ記録があり、また一五八二年の宮中餘興録の中にも“History of Errors” (Error の印刷ちがひ)といふを上演した記事があるといふから、さうしてそれらは皆プロータスの作の意譯か改作かに相違ないから、原作に遡らずとも、作の筋だけは疾うに知悉されてゐたでもあらう。それに、一五九五年に刊行されたウイリヤム・ウァーナー譯の「メニクミー」も一五八四年には、既に文房具商(即ち當時の出版書肆)の帳簿に上つてゐたといふから、沙翁がそれを寫本の稿のまゝで一讀するの機會は、作者仲間と書肆との關係上からは、幾らもあつたらう。かたぐ、彼

れがどうして此等の材源から酌んだかといふとは多く論議するにも及ばないが、さてそれをどんな鹽梅に取扱つたかといふことは相當に興味を唆る問題である。

先づ、プロータスの原作は、簡單明瞭によく書きこなされてはあるが、たかゞ能狂言を複雑にした程度のファースである。沙翁のは、たとひ南北や默阿彌程度に緻密ではな
いまでも、老近松程度の情味が附け加へられて、脚色も性格も著しく精巧化されてゐる。原作は筋立がずつと單純で、露骨で乾燥で、沙翁の改作に見るやうなロマンチック

クな詩趣といふものが無い。二者の差は本建築とバラック建てとの相違で、いはゞ、沙翁のは母屋二棟の間取りだけをバラックに多少倣つて建て、更に二三の別棟を増築し、且つ内外を周到に粧飾し、豊富に器具、調度を備へ附けたといふ概がある。原作も調子は至極快活であるが、武斷國の産物であるだけに、どことなく殺伐な荒々しさや騒々しさが伴つてゐる。此點に就てエドモンド・ゴッス氏が巧妙な比喻評をしてゐる。其大意に依ると、プロータスの作には才氣ある頑童の惡ふざけといふ氣味があるが、沙翁のはずつと大人びて、柔和で、上品で、ファースと

は言へ、出て来る人物に多少づゝ活きた人間らしい色調が見える。原作の人物は、いはゞ、ダーク式操りの偶人で、驚くべく敏捷に跳ね廻り、目まぐるしく翻斗返りなどをするが、要するに、機械的で、逆も活きた人間とは思へない。が、その偶人に沙翁はロマンチックといふ、ともかくも美しい着物を着せて、活人らしく見せた、といふのである。ゴッスは更にいふ「とはいへ、これは沙翁の技がまだ十分に發達した時の作でないから、活人に變らせたといつても、勿論、完全には物されてゐない。二三分間は活人らしい脈が搏つたかと思ふうちに、また元の偶

人へ逆戻りする氣味がある。が、ともかくも人らしい息が舞臺上に通つてゐる。先づ、それが(女では)ルーシヤナを、(男では)イーデオンの頭髪を吹きそよがしてゐる、」云々。

アーデン版の註者カニングハムの如きも本作を賞めて「其最高義に於けるファースの最高水準」を示したものだとし、グラント・ホワイトも、此作は「理想的に高められたファース」だといつてゐる。コールリッチの如きも、此作に對して左の如くいつてゐる。

シェークスピアは、此篇に於て、喜劇や餘興劇とは撰を異にするファースなるものゝ學理的原則や性質に

寸分の間隙もなく一致した正統のファースをわれくに見せてくれた。そもくファースの本領が喜劇コメディと異なるは、主として思ひ切つた自由が許される點にある。のみならず、珍妙な、をかしい局面シチュエーションを造り出す爲には、わざと無法な脚色をさへ許すのである。筋ストーリーは世に有りさうな事 *"probable"* でなくとも、有り得べき事 *"possible"* であればよいとせられる。(此作中では、紳士のアンチフォーラスといふ者も學子、其各自の奴僕僕のドロミオーといふ者も學子といふ事になつてゐるが)、これが喜劇コメディであれば、二人のアンチフォーラ

スを出すときへも、殆ど許されないだらう。なぜなれば、二人(の兄弟)が瓜を二つといふほどに酷似してゐた事は随分あつたとは言ひ條、それはほんの特殊な偶然の出来事であつて、さういふ事實があるといふことは、其有ありさうさうにないといふことことの分疏にはならないからである。

だが、ファースなら、更に敢て二人のドロミオーを追加してもさしつかへはない。それはファースの目的上、體制上の法則によつて是認される。要するに、ファースは、豫め或假定を許されねばならぬものとし

ておいて、そこから割り出して作られるものだからである。云々。

以上の諸説に見えてゐる通り、本篇が、少くとも其大綱に於て、プロトタスに負ふ所の多いのは否みがたい。が、原作通りに、時と處と筋との三一致を——沙翁としては「テムベスト」以外に例のないとだが——嚴格に守りつゝ、而も寸分の隙を見せぬ結構の巧みさといひ、人物の出入の自然さといひ、駄洒落づくめとはいへ、火花を散らすやうに機敏な、いかにも活々した白セリユの受け渡しといひ、これが全くの修業期の習作であつたかと思ふと、今

更ながら、實際的劇詩人としての沙翁の天分が想ひやられる。かうはいふものゝ、性格描寫の手際は、無論、後々の名作のそれのやうでなく、人生觀察の深みを示す警句などは殆どない。それでも、ファースとして書かれた此作中の人物の言動にすら、他の同時代の作家らには見出だしがたい人間味がほのめかさされ、且つ、大詰に於て、原作とは全く行き方を變へて、永久の平和と慰安とを豫示したなどは、此作者の特色として注意すべきである。

此作の上演史は比較的貧弱である。それは容貌のよ

く似た俳優が二組要るといふ點に困難があつたからであらう。沙翁がこれを書いた時分には、按ふに、さういふ誂へ向きの二組の役者がゐたのらしい。

十九世紀になつて、此劇で成功したのはウヰップ姓の兄弟、チャールズとヘンリーであつたさうな。此二人が僕のドロミオー二人に扮して、英國でも米國でも見物を喜ばせた。一八六六年の九月にはドリュアリー・レオン座で、やはり、此二人が此作を上演した。其時の老父イーデオンは、サー・ヘンリー・アーギングの一座で多年重んぜられてゐたトマス・ミードといふ俳優であつたといふ。

其後、リュイス・ウィングフィールドといふが三幕各一場づゝの劇に此作を書き縮めて、それを臺本にして、一八八一年の六月に、エドワード・セーカーにリヴプールのアレキサンダー・シヤターで上演せしめた。その時は背景、衣裳等に費用を厭はず、非常に目ざましく華やかにして見せたといふ。これも成功であつた。リオネル・ブラッフといふ俳優がドロミオーの一人に、セーカーの妻が口やかましい妻女のアドリヤナに扮した。一八八三年一月にも同じ臺本でストランドン・シヤターで復演があつたが、此際には、弟のドロミオーをジョン・クラークといふが勤め、ハーリー・ポルトンといふ者の妻

が兄のドロミーオーを勤め、是れまた非常な成功であつたといふ。

アメリカでは、前にいつたウェブ兄弟が當てた以後には、ジョセフ・ジェファートンとジョセフ・コエルといふ者がドロミーオー役者として知られた。それは十九世紀の初めの事である。その後の大念入りの復演はアルフレッド・トンプソンのニュー・ヨーク市のスター・シアターに於ける一八八五年の秋のことで、これも大當りであつた。其次ぎのアメリカ興行はスチュワート・ロブソンのそれである。

イギリスの十八、九世紀の俳優では、ジョセフ・シニッパード・マンデ

ンが弟のドロミーオーを得意の持役にして、チャールス・ケムブルの兄のアンチフォラスに對して演じたさうな。多分、最近年では口繪に加へておいた舞臺面のそれ(即ちメルリンの上演)が最も注意すべき演出であつたらう。

此作は營利劇場の出し物としてよりも、學校劇なぞに適してゐる。然るは、前者では俳優中に適任者が有るかどうかにより、又、階級問題が邪魔になつたりして、上演しがたいとも多いであらうが、筋の面白味が主で藝

能は寧ろ第二位の作柄だから、素人劇に適し、學校の如き集團中には似た顔附の役者を選出することが割合に容易だからである。二つには、たとひ拙劣な役者が演じても、相應にをかしく觀られる劇だからである。

十五年五月下旬

譯者 識



場 二 第 幕 二 第



場 二 幕 三 第





第五幕第一場

登場人名

ソーライナス、小エジャにあるエフェサス市の公爵。

イーデオン、シ、リー島にあるシラキュース市の商人。

エフェサスのアンチフォーラス 學子、イーデオンとイーミリヤ

シラキュースのアンチフォーラス との間の子。

エフェサスのドロミオー

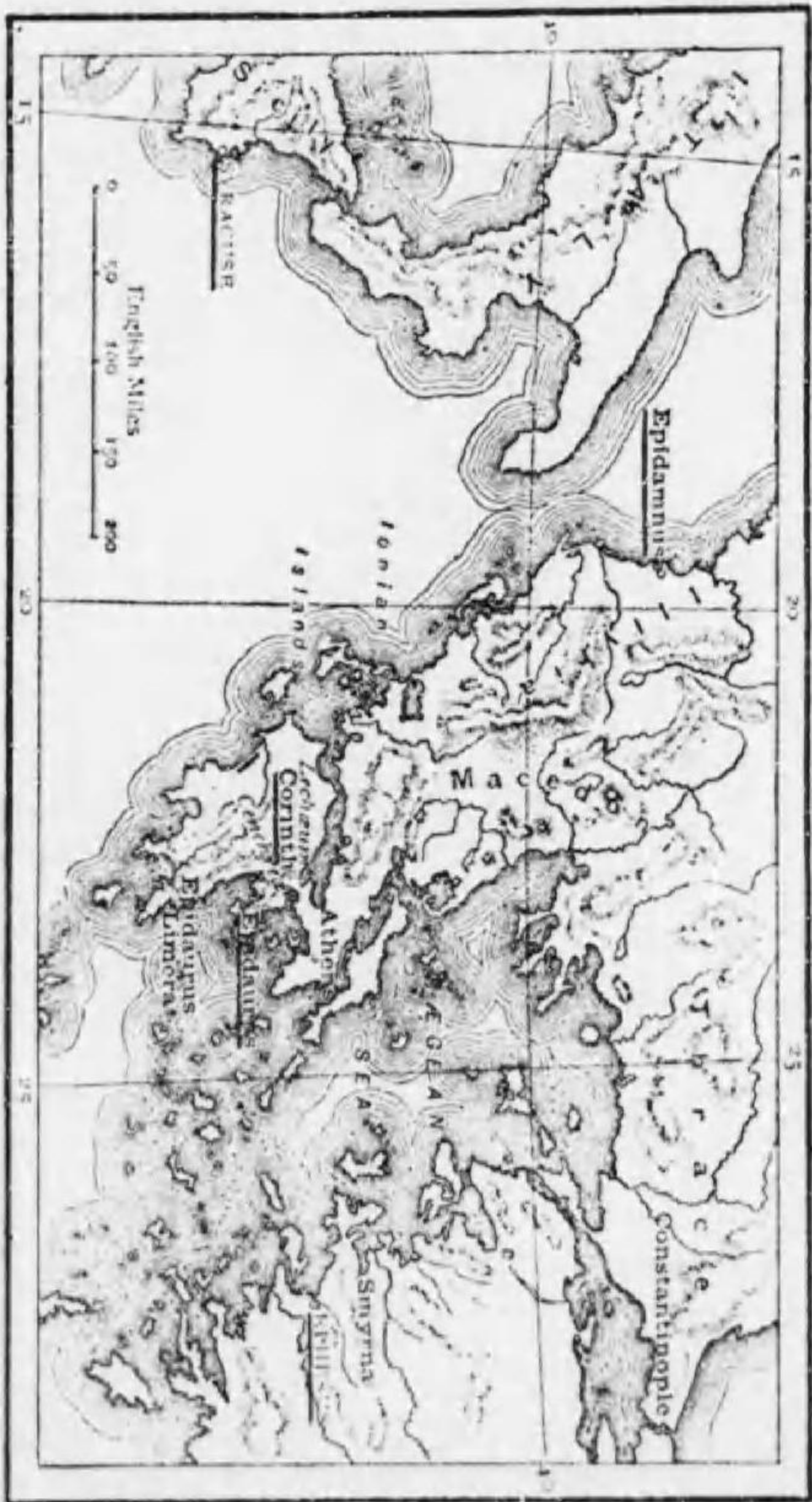
シラキュースのドロミオー 學子、二人のアンチフォーラスの僕。

バルターガー、商人。
 アンチエロー、金細工師。
 甲商人、シラキニースのアンチフォーラスの友。
 乙商人、アンチエローの債主。
 ピンチ、學校教師にして咒法家。

イーミリヤ、イーデオンの妻、後にエフェサスの尼院主。
 アドリヤナ、エフェサスのアンチフォーラスの妻。
 ルーシヤナ、其妹。
 リューズ、アドリヤナの婢。
 一娼婦。

警吏（牢役人）、其他の役人、侍者等。

場所 エフェサス。





間違つゞき



第一場 公爵ソーライナスの館の一室

小エッセス市シラキユースの公爵ソーライの商人イーダの役人侍者等出る。

イデオ ソーライナスさま、速すみかに御處ごしょ分ぶん下くださ

公爵

いませ、死刑の御宣告さへ下れば、不幸も何もかも終局に相成りますから。シラキユースの商人、もう辯解はするな。國法に背いて依怙の沙汰をいたすわけにはいかんから。おまひの國の公爵が、此國の善良な商人共を、國法を楯に取つて、暴虐にも、身代金が不足であつたため、死刑に處したのが原因で、最近、兩國の間に確執が生じた、其結果、此方もまた脅威の目を以ておまひたちに臨むことになつて、寸分の憐憫をも加へがたい。といふのは、兩國間に激烈な軋轢が始まつて以來、亂を好むおまひの國人とわが國人との間に嚴肅な會合が開かれ、向後は互ひに相敵視し、相交商するを禁ずるといふ決議文を發表した。いや、そればかりでない、若しエフエサス生れの者がシラキユースの市場に現れ、又シラキユース生れの者がエフエサスの港に入るに於ては、科料として一千マークを徴す、此賠償を支拂ふ能はざる時は、其者は死刑、其貨物は公爵之れを沒收して處分すると規定さ

イデオ

れてゐる。其方の物は、最高評價が一百マーク以下である、それゆゑ其方は、法律上、死刑に處せねばならん。

でもまだ聊か慰めがございます、お言ひ渡しさへ濟めば、此身の不幸が夕日と共に失くなりまする。

公爵

そこで、シラキユース人よ。一體おまひはどういふわけで本國を離れ、何の爲に此エフエサスへ來たか、それを簡短に申して見い。

イデオ

口には申し盡されませんが、悲しい身の上を、話せとおつしやられますほど辛い術ないとはございませぬ。けれども手前の此身の果は、不埒な犯罪のせゐではなく、切なる人情の然らしめたのだと申すことを、世間の人達に知らせますために、悲みの間にも言へることだけを申しませう。手前はシラキユースで生れまして、ある女を……手前に連れ添はずば、又運さへわるくなかつたら、手前ゆゑに幸福者ともなりましたらう或女を……娶りま

した。一時は楽しく同棲いたし、エビダミヤムへ折々の、貿易の航海も仕合せよく、おひくく身代も善くなりましたところ、在外の代理人が死に、商品の世話をする者が全くなくなりました結果、手前は懐かしがりをする妻に離れて外國すまひ、それがまだ六ヶ月にもなりませんうちに、妻は……女の身のまぬかれぬ楽しい苦患に、息もたえなく……身支度いたし、後をしたひ、忽ち無事に、手前の居處へ着しまして、そこにて幾程もなく、めでたく善い男の子を二人生み落しましたたが、不思議なほど善く似まして、ちがふのは名前ばかり、まるで見分けの附かぬほどでございました。その同じ時間に、同じ旅舎で、身分の賤しい女が、やはりよく似た男の孿子を生みました。其親共夫婦は貧困者ゆゑ、手前が其子供らを買ひ取り、俵共の下僕にと育てました。さて妻は、善い男の子二人生みしましたのを知り合ひに自慢したさに、毎日のやうに歸國をせがみまする。氣は進みませぬ

ど、同意いたし、つい取急いで船へ乗りましたのが不仕合せ！ エビダミヤムから約一里半の間は平穩にて、風任せなる海上に、何等災厄の凶兆も見えませなんだゆゑ、安心してをりましたは束の間の空だのため、眞闇な天から微かに刺す光り物すごく、命はもう直に無いものと、自分だけは觀念いたしましたものゝ、まぬかれがたい運命を前にして、間斷なく打歎きまする妻、何故ともわけは知らずに人真似に泣きわめきまするいたいけな赤子どもを見るに附け、彼等のため、わがために、無理やりに生き延びんといたしましたけれど、その手段は只一つしかありませんでした。と申すのは、船頭どもは、艇に乗つて逃げてしまひ、船はもう今にも沈みさうな有様ゆゑ、妻は先づ乙の方（モトノマ）を水夫共が大あらし用にとて備へおきまする小さな帆柱へ下人の孿子の一人と共に縛り附けまする、手前もまた兄の方と今一人の下人の孿子を同様にいたしまする、かく手配りをしました

後、われ／＼夫婦は、各自の受持ちを見守りながら、其帆柱の兩端に同じく體をしばりつけ、潮のまに／＼漂ひつゝ、コリンスらしい方角へと押流されて参りました。そのうちに太陽が昇り、お光りの恩恵で、われ／＼を苦しめた密霧も晴れ、海原も和ぎました。と遙か向うから二艘の船が：：一艘はコリンスの、今一艘はエビドラスの：：船が、われ／＼目がけて、疾走して参りましたが：：お、もうこれで御免下さいまし！ その成行きは、どうぞ御推量下さいまし。

公爵

いや、もつと話をつゞけい。赦免は叶はんまでも、憐憫を掛けて遣はす。中止してはいかん。

イデオ

お、神々さまが其折に、御憐憫を垂れて下さいましたなら、ても無慈悲なお方々と、當然らしう今日お怨みは申しますまいもの！ と申すのは、其船どもが、もうたつた十四五里で出逢ひませうといふ其途端に、われ／＼

夫婦が頼みの船は巨巖の上へ叩き附けられて真中から真二つに摧かれて、夫婦親子は無慚の離別、運命がわれ／＼二人に残しくれましたものは、嬉しいにも、悲しいにも、どちらも同様、二人の赤子。妻のはうは、荷は軽くとも軽くはない悲みを乗せたまゝ、一しほ早く風下へ吹き流され、やがて目の前で、コリンスのらしい船の漁夫に、三人ながら救はれました。手前ども、つまりは、他の船に助けられ、名を名乗るに及んで、いろ／＼と歡待を受けました其上に、先きの漁船に追ツ附いて、妻子を取返しくれるべく骨を折つてくれましたが、船足が遅いためにそれは叶はず、空しく本國へと漕ぎ戻りました。手前が幸運を奪はれました次第、不運にも生き残り、悲しい不仕合せの身の上話を申しあぐるに至りました次第は、かくの通りにござりまする。

公爵

おまひが歎く其者共の爲ぢや、それから今日までに、おまひたち父子の身

イデオ

にどういふことが起つたか、それをくはしく話してくれ。
 末ながら惣領とも大切にいたしをりました件めは、十八歳になります
 と、頻りに兄の事をたづねまして、彼れ同様、兄に離れ、只其名だけを留め
 てをりまする僕を連れて、兄を捜しに旅へ出たいとせがみました。手前
 とても、兄めに逢ひたいといふ心が切でございましたゆゑ、あやぶみなが
 ら、可愛い末めを、敢て出してやりました。さて手前は、ギリシヤの端に
 五夏を費し、アジヤの國境を残りなくさまよひ、本國へと沿岸に船を進め、
 此エフエサスまで参りました、見込みはないと存じながら、苟も人住む里を
 探さないで過ぎますのが不本意さに。手前の履歴は、もう是迄でござい
 ます。たとひ非業に相果てましても、せめて子供らの生存を、多年の回國
 で、保證し得ての上ならばと存じますれど、是非に及びません。

「末ながら云々、妻に伴つたはうが末子であるべきだが、作者

がふと思ひちがへたものと見えて、以下すべて逆になつて
 ぬる。けれども譯はわざと原文通りにしておく。其積り
 で讀まれたい。

公爵

はてさて、不仕合せなイデオン、惡運の限りを荷ふべく宿命の神に見込
 まれてゐたのもあらう！ あゝ、若し國法にも、公權にも、予が誓言に
 も、予が威嚴にも違背せずして、宣告を取消すことが出来れば、何とかして
 助けて遣はしたいと思ふが、國主としては、只さう思ふのみで、さうはなら
 ん。が、既に死刑を申し渡したから、予の名譽を傷附けずしては、如何と
 もしがたいとは申せ、なほ能ふ限り、便宜を興へてやりたいと思ふから、こ
 れ、商人、今日だけは其方の自由を任す、有利の助力を得て、金を拵へい。
 エフエサスに於て其方が有する限りの知友を尋ねて、貰ふなり借りるなり
 して、定額を作ることを試みて、命を助かれ。それが出来ん時は、死刑に

處せられねばならんぞ。…牢役人、彼れの監督を申し附くるぞ。

牢役 かしこまりました。

イデオ

(長歎して) 頼みも頼りもないのに、死んだも同然の身の最期を、一時引き延ばすために、出掛けるのか!

はいる。

第二場 市場

シラキユースのアンチフオラス(即ち前の場の商人イーデオンの末子)が其僕シラキユースのドロミオ(即ち、これも弟の方)を連れて、エフェサスで知り合ひになつた商人甲と共に出る。以下肩書

はシラキユースのアンチフオラスを弟アンチ、同ドロミオを弟ドロミと略記して、兄アンチ、兄ドロミと區別するにす。

商甲

だから、エビダミヤムの者だとおつしやるがよろしい、でない、持つておいで、物を、みんな取りあげられますよ。けふもシラキユースの商人が、こゝに着くや否や捕まりましたが、贖金(みあが)が足りない、市の制規通り、あの疲れ顔の太陽が西に落ちてしまはんに、死刑に處せられます。さ、おあづかりしてゐたお金はこゝにありますぞ。

弟アンチ

おい、ドロミオ、この金をおれたちの泊つてゐる人馬館へ持つてつて、待つてろ、おれの行くのを。もう一時間で食事時になるだらうから、それまでおれは此町の風俗を見たり、商人を観察したり、建物をながめたりして、それから歸つて、ゆつたりと寝よう、長い間の旅で體がしやちこばつて疲れてゐるから、ゆけ〜。

弟 ドロミ ゆけとおつしやりや、大抵の者なら、つい去ツちまひませうよ、こんな結構な代物を持たされてるんですから。

はは 入る。

弟 アンチ (商人甲に) 正直なやつですよ。心配事があつて、気がくさくしてゐる時なんかには、あいつめが折々面白い洒落なんぞをいつて、わたしを慰めてくれます。どうです、市中を一しよに歩いて、それからわたしの宿へ来て、一しよに食事をしませんか？

商 甲 失禮ですが、大ぶ儲け口になりさうな、さる商人衆に招かれてをりますから。夕刻の五時には、市場でお目にかゝりまして、それからお寝みになるまではお伴をいたします。只今のところは暇をいただきます。ちや、一旦お別れしませう。わたしは、どことあてもなしに、市場見物のために、あちこちとろつきませう。

商 甲 では、たんと御見物なさいまし。

はは 入る。

弟 アンチ たんと見物をしろてイのは、出来ない相談の忠告だ。おれが此大世界で連れを捜すのは、一滴の水が大洋に落ちて其仲間の一滴を捜さうとするやうなものだ。見られず、知られず、尋ね廻つて、果は自分も形なしになる。おれがそれだ。母、兄を尋ねわびて、遂には身を亡す……

エフエサスのドロロミオー即ち兄のドロロミオーが出る。彼れは此エフエサスに妻と共に定住してゐる兄のアンチフォラスに使はれてゐる。兄アンチが外出して歸りがおそいので、今迎ひに來たのである。それを弟アンチは、つい先刻旅館へ金を持たせてやつた弟ドロロミと取違へて、左の如く呼びかける。

あ、おれの生年月の暦(同月同日生れのやつ)がやつて來た……どうした？

何故かう早く歸つて来た？

兄
ドロミ

(呆れて)え、早くですつて？ どういたしまして、やつとお目にかゝつたんです。鳥肉は焼け過ぎる、豚肉は串から落っこちる、時計の鐘は十二を打つ、お内儀は、火のやうに熱くなつて、手前の頬邊でそれを一時にお打ちなほし、お内儀が熱くお成りなのは、御食物が冷たくなるため、御食物の冷たくなるのは、あなたのお歸りが遅いため、お歸りの遅いのは、あなたのお肚がすかないため、お肚のすかないのは、今朝ちつとお食べ過ぎなすつた爲。しかし物を食べないでお祈りをせにやならぬと心得てゐます手前どもは、あなたの今日の御不埒で、とんだ難行をいたします。

弟
アンチ

えい、無駄は止せ。それよりもあれはどうした？ どこへおいて来た先刻の金は？

兄
ドロミ

おゝ、……あの六片、先の水曜日戴いた、馬具屋へ遣るお内儀の鞆

代？ 馬具屋へ遣つてしまひましたよ。

弟
アンチ

おい、戲言なんか聞く氣はないんだ今は。これ、早く聞かしてくれ、金はどこにある？ こちとらは爰ぢやア外國人だぜ。どうして汝は向う見ずに、あんな大金を手離して預けて来たのだ？

兄
ドロミ

もし、御戲談はお食事の時になすつて下さいまし。大急ぎでお内儀とこれから續け走りややつて来たんですが、戻つてゆきや、きつと附ッけ柱の代りにされて、あなたの御不埒を一々此頭へ刻み附けられますア。あなたの胃腑だつて、手前のおなじに、時計の役を務めて、お迎ひに来なくつたつて、時刻が来りや、鳴りさうなものですねえ。

「附け柱」云は、旗亭などで、一々勘定高を筆記する代りに傍らの柱へ一寸切り目を附けて代用とする習慣のあつたのに引ッ掛けて、こゝでは、主人の妻が嫉妬の八つ當りに僕の

頭を幾つも撲つことの比喩にしてある。

弟

おい、ドローミオー、駄洒落なんかいつてる場合ぢやない。そんな無駄口は、もつと悠長な時にいへ。おい、どこにある、汝にあづけた金は？

兄

え、手前に？ お金なんかいたゞきやしませんよ。

弟

おい、馬鹿はもう止めにしろ。いひつけたことは、どういふ風にして来たか、それを話せ。

兄

おいひつけは、あなたを市場からお連れ申して歸れといふのでさ、お宅へ、鳳凰館へ、お食事時ですから。お内儀さんとお妹さんが待つていらつしやいます。

弟

こら、おれはキリスト信者だぞ、金をどんな慥かなところへ預けて来たか、言へ。はつきり言はんと、おれが其氣になつてもゐないのに、わるく浮かれて戯けやがる汝の其駄頭を叩き割つてくれるぞ。おれが渡した一千マ



兄

マークはどこへ遣つた？
マーク(傷痕)なら、あなたにいたゞいたのが、頭に幾つか、お内儀にいたゞいたのが肩に幾つかありますが、両方合せたつて、一千傷痕にやなりませんや。みんな御返却したつてもようござんすがね、とツても辛抱してお受取りなさることア出来ませんでせう。

弟

お内儀のマークだ？ お内儀
たアどこのおかみさんだ？

兄

あなたさまの御家内様でさ、鳳凰館においでのお内儀でさ。
あなたがお歸りにならんでいと、何にもめしあがらないで、お祈りばかりしておいでゞさア、早

くお食事しよくじに歸かへられますやうにッてね。

弟 アンチ うぬ、止とせといふのに、まだおれを馬鹿ばかにしやがるのか？ さ、これをくらへ、うぬ！

兄 ドロミ どうなさるんです？ まあ、そのお手てをお控ひかへなすつて！ ひッかへて下くださらなきや仕方しかたがない、こつちが踵かかとを引ひッ返かへすんだ。

と一いちさんに逃にげて入はる。

弟 アンチ こりやキツと、どうかいふ偽計てくてに乗のせられて、やつこめ、金かねを残のこらず騙かたられやがつたに相違さうちない。此市このまちにや詐欺師さぎしが一いぱいだといふ噂うはさだ。生馬いきうまの目めを抜ぬく手品師てじなしのやうなやつだの、すごい祕法ひはふで人心じんしんを感亂わくらんさせる魔法使まほうつかひだの、靈魂たましひを殺ころし、肉體からだを不具かたはにする魔女まじよだの、姿すがたを俏やつした騙詐師べんぜんしだの、おしやべりの香具師やかしだの、その他たそれに類似るゐじのいろんな悪者わるものが。果はたしてさうなら、早はやくこゝを立たッちまはう。まづ、人馬館じんたかへ往いつて、あの野郎やろうを

たづねよう。どうも金かねはなくなッちまつたらしい。

入はる。

*
*
*
*
*
*
*
*

第二幕

第一場 エフェサスのアンチフォラスの宅

兄のアンチフォラスの妻のアドリヤナと其妹のルーシヤナ出る。

アドリ 宅のも奴も歸つて来ない、大急ぎで旦那をさがして来いといつてやつたのに！ ねえ、ルーシヤナ、もう二時だらう？

ルーシ きつとどこかの商人衆に呼ばれて、市場からすぐに御會食にいらしたんでせうよ。姉さん、もう食べませうよ、怒らないでね。自由自儘は

アドリ 男の人の権利ですわ。けれども「時」だけには叶はないから、時さへ来れば、往きもなされば来もなさいませう。ですから、ま、忍耐なさいね。

アドリ なぜ男にばかり自由自儘が許されるんだらう？ わからないぢやアないの？

ルーシ 始終外で仕事をせにやならんからでせう。

アドリ だつて、これほど務めてるのに、よくも思はないんだもの。

ルーシ おゝ！ でもあの方はあなたの意志の手綱ですわ。

アドリ 驢馬(馬鹿)でなくって、だれが手綱なんかに引廻されるものかね。

ルーシ だつて、我儘勝手しようとするりや、いつかは管(罰)が當つて、辛い目に逢ふわ。天のお目の下にある者は、地上のでも、海の中でも、空中のでも、みんな程々を守つてますわ。獣でも、魚でも、鳥でも、みんな雄には負けてゐますわ。人間は萬物の靈長で、魚や鳥よりはすつとすぐれた智慧や精神

を持つてをり、廣い世界や大きな海の領主なのですが、そのうちで、男は女の主でもあり君でもあるのです。ですから、何事も男の方には逆らはないやうになさいな。

アドリ さう卑屈だから、お前はいつまでも獨身であるのよ。

ルーシ さうぢやアないわ、わたし夫婦關係といふものが煩いからですわ。

アドリ おまひだつて、結婚をすりや、幾らか我が張りたくありませんやうよ。

ルーシ いゝえ、わたしは、柔順にする稽古をしてから、戀をしますわ。

アドリ 若し御亭主が餘所へばっかし出かけるやうになつたら、どうするの？

ルーシ 歸つて見えるまで、忍耐してますわ。

アドリ 平氣で忍耐！ さうおちついてゐられるのに何の不思議もないわよ。怒

る理由がなけりや、おとなしくしてもゐられる筈だからね。逆運に泣いてる惨めな人をば、たれしもまアくと和めるけれど、それと同じ苦患を

自分で脊負へば、同程度に又はそれ以上に、歎くのがわたしたちの定りです。おまひも、まだ泣かされる不實な夫を持つたことがないもんだから、役にも立たない忍耐なんかを主張して、わたしを和めようとするのよ。だが、わたしと同じ目に逢ふ時まで生きてゐりや、その馬鹿らしい忍耐論は、きつと捨て、おしまひだらうよ。

ルーシ さア、そのうちに結婚をして、試験して見ませう。……(一方を見て)ドロミ
オーが歸つて來ました。もうお宅のが直よ。

兄 ドロミオー出る。

アドリ おい、足のろの旦那は、もうぢきかい？

ドロミ お足はお緩くつても、お手はすばしっこうござんすよ。どえらいのを此耳

へ頂戴しました。

アドリ おい、會つたのかよ？ 御返辭を聞いたの？

兄 ドロミ へい、きゝましたとも、しッかりきゝました、此耳ツたぶへ。手酷いんですもの、こたへらりやアしません。

アドリ え、お答へが出来なかつた？ おつしやることが曖昧？

兄 ドロミ 曖昧どころぢやありませんや、明瞭にびしやりッと來ましたですがね、それがその、到底こたへられない程度なのでござんす。

アドリ だがさ、もうすぐにお歸りなのかい？ え？ わたしへ濟まなれと思つて、きッと氣を揉んでゐなさんだらう。

兄 ドロミ どうしまして、おかみさん、旦那は交接期の牛のやうでさ。

アドリ 馬鹿ッ！ さかり時の牛といやア……

兄 ドロミ いゝえ、其意味ぢやありませんよ、氣ちがひのやうに怒つておいでなさるといふんでござんす……お食事時ですから、お歸りなさいましと申しましたら、一千マークの金はどうしたとおつしやいます。「お食事時」と手前

がひみますと、「金は？」とおつしやいます。「めしあがり物が焦ツちまひます」と手前が申すと、「金は？ 汝にわたした一千マークは何處へやつたり？」とおつしやいます。「豚肉が焼け過ぎます」と手前がいふと、「金は？」とおつしやる。「おかみさんが」といひますと、「おかみさん糞ヲ食へ！ 汝のおかみさんなんか知るものか！ 馬鹿ッ！」

ルーシ だれがそんなことを？

兄 ドロミ 旦那がです。「おれにや家はな、妻もない、かみさんもない、と斯うおつしやるんです。さういふわけで、口でお傳へする筈の御返辭を、お庇さまで、肩へ頂戴してまゐりました。といふのは、つまり、こゝをお撲ちなすつたといふことです。

アドリ えい！ もう一度往つて、ひッばつといで。

兄 ドロミ え、もう一度往つて、ひッばたかれるんですか？ 後生ですから、だれか他



アドリ
の者をおやんなすつて下さい。
往きなといふに。 いかない
と、はりたふすよ。

ドロミ
さうして又旦那にはりたふさ
れりや、どこで立ちましょわし
が身はだ。

アドリ
何をしやべつてゐるんだねえ、
農奴！ 早く往つて旦那をひ
っぱつといで。

ドロミ
さう蹴飛ばすやうにおつしや
るのは、手前が蹴ン鞠とも見え
ますのかね、手前の目にやアま

たあなたがあんまりとも思はれますよ。 あなたにやあつちへって蹴飛ば
される、旦那にやそつちへって蹴返される。 こんな風ぢやア、とゞのつま
り、革袋へ押込められつちまふんだらう。
は
入る。

ルーシ
まア、そんな怒つた顔をしていらつしやるなよ！

アドリ
好きな女どものとこへばかり入りびたつてゐて、内で待ちこがれてゐるわ
たしには、さつぱり機嫌の好い顔を見せたことがない。 連れ添つて年が
経つたから、わたしの標致が衰へたのか？ 衰へさせたのは、あの人でな
くてだれたらう？ わたしの話ッぷりが流暢でなく、いふことが詰らない
からいやなのか？ 不深切にされりやア、どんな流暢な舌でも鈍るわね、
氣のきいたことなんかいへるものか！ あいつらの華美な扮装に氣が
移つて、わたしの装が見ツとむないのか？ そりやわたしがわるいんぢや

ない。どんな立派な装なりと、させるがい、ぢやないか？ 若し何か愛想を盡かされるやうなことがわたしの身に出来たとすりや、そりやみんな宅の人のせむだ。わたしの知つたことぢやアない。よしんば色香が衰へたつて、機嫌のいゝ顔さへ見せてくれりやア、もと通りにすぐなるわよ。それなのに、手におへない鹿のやうに、しよつちう柵から脱け出して、餘所の牧場でばかり食べたり、寝たり。わたしはほんの案山子同様よ！

ルーシ
まア、そんな風に邪推をして、怪氣をなさるなよ、却つて御自分の爲にならんわ！

アドリ
無神経の馬鹿か何かでなけりやア、こんなに侮辱されて、黙つてゐられるもんかね。どこかに好きな女が出来たに相違ない。でなきや歸つて来ない筈はないんだもの！ ねえ、おまひも知つての通り、わたしに金鎖をくれるつて約束をしたらう。あゝ、どうか、あれだけは他へ遣らないでお

いてくれるやうに、わたしを忘れつちまつたのでなけりや！ 象箴の寶石は、どんな上等なのでも、(磨り減つて)美しさを失ふことがあるんだけれど、(象箴の臺地となつてゐる)黄金は、他がいぢくつて、それで磨り減つたからつて、形なしにはならない。人間も名のある人なら、どんなに墮落させられたからつて、破廉恥なことはしない筈なのに。わたしはもう色香が衰へて捨てられたのだ。此残つてゐる色香を、泣いてく、めちやくにして死ぬより外にしかたがない。

泣くく入る。

ルーシ
(見送つて)ほんとに、世間には、馬鹿らしい邪推ばかりして嫉妬を焼く人の多いこと！

第二場 街上

シラキユースのアンチフィラス(弟アンチ)出る。

弟

ドローミオーに渡した金は人馬館にちやんとあづけてあつた。注意ぶかい彼奴め、おれを捜すために、うろつき廻つてゐるらしい。宿の亭主のいふ所によつて、時間を繰つて考へて見ると、最初あいつと市場で別れてから、逢つて話をする暇なんかはない筈だが。…あ、やつて来た。…

弟ドローミオー出る。

おい〜！ もう道化気分は止めか？ え、撲たれたけりや、又ふざける。え、人馬館でここは知らない？ 金なんか受取らん？ え、お内儀の吩咐だから、早く食事に歸つて来いッて？ え、おれの家は鳳凰館だッて？ き

弟

さまは氣が違つたのか、あんな氣ちがひめいた返辭をしたのは？

弟

へ？ どんな御返辭を？ いつ、手前がそんなことをいひました？

弟

つい今、ついこゝでよ。まだ半時間とは経たない。

弟

手前は、お金をおあづかりして、人馬館へ来りましてから、お目にかゝるのは今が初めてです。

弟

やい、きさまは、金なんか受取らないといつて、お内儀がどうしたの、食事が斯うしたのと言やアがつた、それでおれが腹を立つたのは、よもや解つてたらう。

弟

へ、大層御機嫌さまで、結構でございます。ですが、ねえ、旦那、なぜそんな御戲言をおつしやるのでございませう。

弟

何だと、むけ〜とおれを馬鹿にしやがるのか？ 戲言だと思つてやがるのか？

弟

まて、かうしてやる。さ、かうして。

弟

まて、かうしてやる。さ、かうして。

弟

まて、かうしてやる。さ、かうして。

弟

まて、かうしてやる。さ、かうして。

弟

まて、かうしてやる。さ、かうして。

と撲つ。

弟 ドロミ ま、ま、後生でございます、待つて下さいまし！ 御戲謔かと思つたら、真

劍なんですか！ なぜこんな目にお逢はせなさるんです？

弟 アンチ 平素おれが心易くさせて、幫閑代りにして、戲談口をき、合ふのに附け上

りやアがつて、おれが生真面目である時でも何でもかまはず、生意氣にわ

る戯けをしやアがるからだ。 蚋の出で遊ぶのは太陽が照つてる間だ、照

らなくなりや、すぐに穴へ這ひ込むのが定りだ。 おれを敵手に戯ける料

簡なら、おれの顔色をよく見分けてからやれ、でなけりや、其駄頭で返事を

する覺悟をしろ。

弟 ドロミ へ、手前の頭がお城ですツて？ 手酷い御攻撃をお止め下さいますりやア、

在りかたのまゝの頭でおきますけれど、お撲ちになりますなら、頭に兜で

もかぶりますか、尻に帆を掛けますか、どっちかをせにやなりません。 一

體、どういふわけで、お撲ちなさるのでございます？

弟 アンチ 知らない、わけを？

弟 ドロシ 全く存じません。

弟 アンチ そのわけをいほうか？

弟 ドロミ へい、どうぞ、其わけや謂はれを。 わけには謂はれは附き物だと申します

から。

弟 アンチ わけは、先づ……(と一つ撲つて)うぬ、おれを馬鹿にしやがつた。 それから、

謂はれは……(と又一つ撲つて)今又さういふ無禮なことをいやがる。

弟 ドロミ こんな無茶苦茶なお處罰てイものアあるもんぢやござんせん、わけにも謂

はれにも、まるツきし、理窟も律呂もありやしなひんですもの……へい

く、有りがたうございます。

弟 アンチ え、ありがたい！ 何が有りがたい？

弟 ドロミ 何にもいたしやしませんのに、これほどの物を頂戴しましたんですからね。
 弟 アンチ 此次ぎ、その賠償に、きさまが何かした時に、何にもやらないで済みますよに
 しようよ。……時に、もう食事時か？

弟 ドロミ いゝえ。御食物は、手前とは、まさに正反對で。

弟 アンチ 馬鹿ッ！（チエツ、好い場合に！）そりやどういふ洒落だ？

弟 ドロミ 手前は、此通り油汗を流してゐますが、御食物にはまだ根ッから脂肪が掛
 かつてをりません。（まだ炙り肉に脂肪を塗るまでの手順になつてをりません）。

弟 アンチ ぢや、まだ白焼のまゝだな。

弟 ドロミ 白焼だつたら、食らんはうがようございます。

弟 アンチ なぜ？

弟 ドロミ 此上、お痲が昂上るやうだと、手前は油汗を絞ち切ッちまふでござんせう
 から。

弟 アンチ えイツ、時と場合を見て戲ける。何事にも時があらア。

弟 ドロミ こんなに怒リッぽくいらしやらなかつた時分なら、いゝえ、と申したいの
 でございますんですけれど。

弟 アンチ え、どういふ理窟があるんだ？

弟 ドロミ 「時」てお爺さんの、あの明白と禿げた頭ほどに判然した理窟があるんです。

「時」又は「機會」を、禿頭爺に比喩するのは、其一たび逸し去るに
 臨んでは、之を追ひかけて捕へようとしても、捉まへどころ
 がない、といふ處からである。

弟 アンチ いつて見ろ。

弟 ドロミ 自然と禿げた頭髪は逆も回復する「時」がござんせんですよ。

弟 アンチ 終結讓與や返納讓與でも駄目か？

弟 ドロミ いゝえ、賃借料を假髪に拂やア出來ます、他の失した頭髪を入手すりや出

來ます。

弟 アンチ 「時」めが何故そんなに毛を吝むのかなア、毛なんかは澤山に生えるもんだらうぢやないか？

弟 ドロミ つまり、獸類にやア無くてならんもんですけれども、人間にや、其代りに、智慧をくれたんでござんせう。

弟 アンチ だつて、智慧よりも毛のほうが多い人間も随分あるぜ。

弟 ドロミ でも、さういふ方に限つて、髪をお失しになるやうな風に、智慧をお使ひになりますよ。
(禿頭におなりなさいますよ)。

毛深きは色好み、色好みは淫蕩生活の爲に所謂フランス病にかゝつて頭が禿げる、云云。

弟 アンチ すると、毛深い男は、つまり、智慧(分別)の足らん抜け作だといふんだな。

弟 ドロミ へい、抜けてゐる人であればあるほど、毛が早く抜けます。けれども、さうなつたはうが便利だといふ理窟もございます。

弟 アンチ どんな理窟がある？

弟 ドロミ 二ヶ條、しかも立派なのが。

弟 アンチ 毛が抜けて、何が立派なものか！

弟 ドロミ ぢや、たしかな理由があります。

弟 アンチ すん／＼抜けるのに、何がたしかだ？

弟 ドロミ ぢや、ある相當の理由がです。

弟 アンチ そりや何だ？

弟 ドロミ 先づ、理髮料が要りません。第二には、お粥なんかを食する時分に、髪が落ち込むなんてことがありません。

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟 ドロミ

弟 アンチ

弟ロミ だつて、そりやもうとツくに申しあげましたよ、そら、自然と失くなつた髪は回復する時がないッて。

弟アンチ いや、きさまの理窟には確實性がなかつた、なぜ回復する時がないかといふ理窟が曖昧だ

弟ロミ ぢや、言ひ足します。「時」てお爺さん自身が禿頭翁ですから、どこまで追ッかけてつても、一旦禿げたのは治りません。

弟アンチ 結論は、いづれ、禿ちよろ(無意義)だらうと思つてたよ。……ちよいと！ だれだか手招きをしてゐる！

アドリヤナとルーシヤナが 出る。

アドリ (手招きされて不審げな顔をしてゐる弟のアンチフォーラスを怨めしげに睨んで、反語的に)はいく、たんと他人らしい振をなさい、むづかしい顔をなさい。優しい顔附は、もう何處の情婦にやつておしまひなすつたんでせう。わたしはも

うアドリヤナでもなければ、あなたの妻でもないのですわねえ。以前には、黙つてゐたつても、あなたのはうからおつしやつたわ、わたしの言葉の外には、わたしの目の外には、音楽はないの、可愛いものはないの、わたしが觸るのが一等嬉しいの、わたしの料理だけが一等おいしいのと誓言までなすつたことがあつたわね。ねえ、どうしてこんな風におなりなのです。お、どうしてかう疎んじなされるんです、あなた自身を？ わたしは自分をあなたと呼びます、切つても切れない仲ですもの、あなたの善い部分全部よりも善いものがわたしのもの。お、今更離れようとして下さるな！ わたしからあなたを引離さうとしたつて、そりや出来ません、ちやうど浪打ち際へ落した一滴の水を、また元へ戻さうとしたからつて、何か添はるか、減るかして、もう元のまゝちや返つて来ないやうに。それとおなじに、わたしとあなたとは離れられない。ねえ、どんなにあ

なた腹をお立ちだらう、若しわたしが淫奔な女で、あなたに獻げた此肉體を不義密通で汚したッてことを、若しもあなたがお聞きなすつたとしたら？

きツと唾を吐ッかけたり、足蹴にしたりして、よくも亭主の面に泥を塗つた、此淫賣めといつて、わたしの面皮を剥いで、婚禮の指輪を引ッたくつて、もう永遠に離縁するぞと怒鳴つて、それを打毀しておしまひなさるでせう。さうなら、さ、今、さうなさい。わたしは不義をしてゐます、此血には邪淫の汚れが沁み込んでゐます。なぜなら、二人は一心同體ですから、あなたが不義をすりや、あなたの肉の病毒がわたしに傳染つて、わたしも淫賣同様になりますわね。だから、契約を守つて、正しい聞と和睦をなさい。あなたさへ破廉恥をなさらなけりや、わたしは無論潔白です。

弟 アンチ (呆れて) もし、奥さん、そりやわたしにおつしやるのですか？ わたしやお目にかゝつたことはありませんよ。 此エフエサスへ來てから、まだ二時間

とは經たんですから、此市の事がわからないと同じに、あなたのおつしやることも、智慧の有リッただけで考へても、只の一言もわかりません。

ルーシ まあ、兄さん！ どうしてそんなにお心持が變りましたの？ つひぞ斯んな風に姊をお扱ひになつたことはなかつたのに！ ねえ、先刻、お食事時ですツて、姊がドロミオーをお迎ひによこしましたでせう？

弟 アンチ ドロミオーを？

弟 ドロミ (驚いて) 手前を？

アドリ おまひをさ。そしたら、おまひ歸つて來て、旦那が酷くお撲ちなすつて、おれにや家なんかアない、妻なんかアないとおつしやつた、と言つたぢやないの？

弟 アンチ (ドロミオーに) え、此婦人とそんな話をしたのか？ (目に角立て) どういふわけで、何の爲に、こんな變な打合せをしたんだ？

弟 ドロミ (呆れて) 手前がですか? あの方は、つい只今まで、見たこともない方です。

弟 アンチ うそをつけ、うぬ。あの婦人がいつた通りのことを、汝はおれに市でいつた。

弟 ドロミ いゝえ、つひぞあの方とは、物なんかいつたことはありません。

弟 アンチ ちや、どうしてあの婦人がおれたちの名を知つてゐるか、靈感か何かでなくつて?

アドリ まあ、あなたは紳士らしくもない、奴僕なんかと共謀になつて、そんな者を玉に使つて、泣き悲しんでゐるわたしを嘲弄させなざるなんて! 疎んぜられる身の不仕合せは、是非に及ばないとも思ひませうけれど、其不仕合せを嘲弄して、尙と不仕合せになさるなんか、あんまりです。これ、(と袖を捉へて) かうわたしが袖に縫ります。ねえ、あなたは楡です、わたしは蔦です。弱いわたしも、強いあなたと夫婦になつてゐれば、強くなつてゐら

れる。この大事のあなたを横取りするやつは人間の屑です、どろぼう蔦です、茨です、むだ苔です、つい抜くの忘れてゐたゝめに、蔓延つて来て、あなたの液を吸ひ取つて、幹はどうならうと、自分だけ生きてゆかうとするやつです。

弟 アンチ (傍白) おれに言つてるんだ。おれを相手にしてしやべつてゐるんだ。はてな、おれは夢の中であの女と結婚したのか? 或は、今が眠てるので、聴いてると思ふのが夢か? どうしたわけか、かう見るもの、聞くもの、聞かんかんになるのか? 何もかも曖昧だ。明かに曖昧だ。しかし此曖昧が明かになるまでは、向うのいふまゝに間違ひを聞き流してゐよう。

ルーシ ドロミ オーや、早く往つて宅の者にお食事の準備をおさせよ。

弟 ドロミ (いよく呆れて、戦慄をして、傍白) おゝ、お念珠さま! どうぞ罪障の消えますやう! こりやきツと魔の國だ。あゝ、どうしたらよからう! 小妖精

だの、鬼だの、魑魅だの、魔物だのといふものは、やつらのいふ通りにしてゐないと、人間の息の根を吸ひ枯らして、青ツ黒くなるまで振り立てるさうだから。

ルーシ

(ドローミオーに) なぜ獨り言ばかりいって、返辭をしないの? ドローミ

オー、なまけ蜂、蝸牛、なめくぢ、阿呆ツ!

弟

旦那、手前はまるで變つたものになつたらしうございます。

弟

さア、氣や心が。さうしておれもだ。

弟

いゝえ、旦那、氣も心も形もでございませす。

弟

形は變つちやゐないよ。

弟

いゝえ、猿になりました。

ルーシ

おまひが變りや、驢馬よ。

弟

なるほど、さうかも知れない。さんぐくに騎り廻されて、どうやら草が食

アドリ

ひたくなつた。さうだ、驢馬だ、おれは。でなきや、先方がよくおれを知つてるのに、こつちが知らんてことはない筈だ。

さ、おいでなさい。もうく、わたし、いつまでも旦那や下男にちやうさい坊にされて、子供のやうに目に指をあて、泣いちやあません。さ、食事にはいらつしやい。ドローミオー、門の番をおし。あなた、けふは二階で一しよに食べませう、そして百まんたら嘘ッばちの分疏を承はりませう。……こら、だれが旦那をたづねて來ても、けふはお招待れだといつて、通しちやならんよ。……さ、妹……ドローミオー、しつかり門番をしな。(後白) こゝは地球の上か、天國か、地獄か? 眠てるのか? 起きてるのか? 氣がちがつたのか? 正氣なのか? あの手にやよく解つてるのに、自分ちや見ちがへてゐるてイのは! どうなつたつてかまはん、ま、暫く、向うのいふ通りなことをいつて、五里霧中を辿つてゐよう。

弟

アンチ

弟 ドロミ 旦那、ぢや、手前は門番を勤めますか？

弟 アンチ うん。だアれも入れるな、入れると汝の頭を割るぞ。

ルーシ さ、さ、アンチフォーラスさん。大變お食事がおくれましてよ。

皆入る。

*

*

*

*

*

*

*

*

*

*

● 第三幕

第一場 エフェサスの兄アンチフォーラスの家の前

エフェサスの兄のアンチフォーラスが、エフェサスの兄のドロミオーと金細工師のアンチエローと商人のバルターザーとを連れて出る。

兄 アンチ

アンチエローさん、濟みませんが、妻はわたしが時間を守らないといふと、馬鹿にやかましいんですから、どうか、彼女の鎖をお店で細工してゐなさるのをわたしが見てゐて、それでおそくなつたんだと言つて下さい、そし

て品は明日持つて来ると、さうおつしやつて下さい。……(ドロミーオーを見返つて)こいつは、實に、不埒なやつです、市場でわたしに會つたの、わたしがこいつを撲つたの、金貨一千マークをこいつにあづけたの、妻も家も有つちやゐないといつたなぞと、むけくと言ふんです。……こゝら、酔ッぱらひ、なぜあんなことを言つたんだ?

兄
ドロミ

何となとおつしやいまし。知つてゐることは知つてますよ。市場でお撲ちなすつたことはお手が證據です。此皮膚が羊皮紙で、お撲ちなすつたのがインキでありや、ちやんとお直筆が残つてゐたでせう。

兄
アンチ

きさまは驢馬だな。

兄
ドロミ

へい、さうらしゆござんす。酷く扱はれて、ぶん撲られたりする所を見ると。蹴られりやア蹴るが當然でした、さうすりや、驢馬の蹄も中々油断は出来んてイとお思ひなすつたでせうに。

兄
アンチ

バルターザーさん、何だか面白くなさうな顔附をしておいで、すねえ。手前の粗末なお饗應で以て、果して歓迎の微意を表し得ればいゝですが。

兄
バルタ

いや、そのお饗應よりも、そのお好志を忝く頂戴いたします。

兄
アンチ

お、バルターザーさん、御歓迎の微志は満ちてゐますが、肉も魚も、迎もお口に適ひさうにありません。

兄
バルタ

いや、只美味といふのなら、有りふれてゐます。下等な家にも有ります。

兄
アンチ

さういやア歓迎の微志とでもせう、口で並べるばかりですから。

兄
バルタ

いや、御馳走は少々でも、御好意が十分といふのが、愉快なお饗應です。

兄
アンチ

さやう、客齋坊の主人や更に一層節儉しいお客なぞに取つてはねえ。いや、どうか、さしあげる物の粗末なのは御勘辯なすつて下さい。御馳走は餘所外以下でも、好意だけは以上の積りですから。……おや! 扉に錠がおりてゐる。……おい、開けるといひな。



ドロミ (内に向つて) おい、モー

ド！ プリヂェット！

マリヤン！ シスリ

ー！ ギリヤン！

ギン！

ドロミ (内から) 馬鹿め、毫碌

馬め、去勢鶏め、阿呆

め、間拔けめ、斑色衣(馬鹿者)め！ 去ッちまやがれ、でなきや半戸の下にしやがんでゐろ。小婢どもをまじくはうてのか、一人呼んでも澤山過ぎるのに、へたくたと名を並べやアがる？ えい、いッちまへ〜！

兄 ドロミ どの唐變木めが門番をしてやがるんだか？…旦那が街中に待つてなさるんだ。

弟 ドロミ (内から) やつて来た方へ歩かせるがい、足が風を引くとわりいから。

兄 アンチ だれだ、そこでしやべつてゐるのは？ おい、扉をあける。

弟 ドロミ (内から、冷嘲口調) はい〜。仔細がわかれば、御返辭します」だ。

兄 アンチ 仔細だ？ 食事をするんだよ。けふはまだ濟ましてゐないんだ。

弟 ドロミ (内から) いや、けふはいけないよ。外の目においで。

兄 アンチ (怒つて) おれをおれの家へ入れまいとする汝はだれだ？

弟 ドロミ (内から) さしあたり門番役をしてゐるドロミオーといふもんだ。

兄 ドロミ (驚いて) おや！ 畜生、きさまは、おれの役目をも、名前までも、盗みやアがつたな！

ども。うぬ、けふ、おれの代りにドロミオーになつて見ろ、名の爲に面を變へたいと思はなけりやア、面の爲に名が變へたいと思つたらうぜ。

このとき下婢のリユースが門内へ出る。

リユー (内から) ドローミオーどん、何だい、騒がしいぢやないか？ 外にゐるの？
だあれ？

兄 ドロミ (リユースの聲を聞き附けて) リユースどん、旦那をお入れよ。

リユー (内から) いゝえ、いけませんわよ、もう晩インですから。御主人さんにさう
おいひなさい。

兄 ドロミ おやゝゝ！ あんまり馬鹿々々しいや！ おい、下世話で行くよ。杖を

リユー こゝへ掛けるよ」とは如何だ？

兄 (内から) ぢや、同じくよ。「へん！ お解りですかッ？」

弟 ドロミ (内で、リユースに) あんたの名はリユースてイのかい？ ……リユースさん、うま
く返答したねえ。

兄 アンチ おいゝゝ、生意氣女、もういゝ加減に入れてくれるだらう？

リユー (内で) あんたにおたづねしようと思つてたところよ。

原書に脱文があるらしく、此處不明。或はマロインの如きは「繩を持つておいでか、云々」といふ句を挿補しようとした。又或校註者は兄ドロミオーの語に添削を試みた。が、つまり、不明。

弟 ドロミ (内で) すると、あんたが否といひなすつた。

兄 ドロミ よし。さ、手傳つて下さいまし。…(主人の兄アンチフォーラスと力を合せて、手

ひどく戸を叩いて)…結構でした！ ちつとは徹へましたらう。

兄 アンチ えい、阿魔、開けろ。

リユー (内で) どなたの爲にですッ。

兄 ドロミ 旦那、手ひどくお叩きなさいまし。

リユー (内で) 扉が痛がるまで、叩くがいゝわよ。

兄 アンチ 何を生意氣婢が、戸を叩き破る段になると、哭かなきやアならんぞ、うぬは！

リユー (内て) その時ア此市の曝し物臺が二箇も役に立つわ。

此うちアドリヤナが奥から出る。

アドリ (内て) 戸口で怒鳴つてるのはだれです?

ドロミ (内て) この市にや、不良少年が大分ゐるらしいうござんすねえ。

アンチ (アドリヤナの聲を聞き附けて) おい、妻、そこにゐるのか? もつと早く出て来ればいゝのに。

アドリ (内て) ま、妻だつて? 此惡黨めが! 去つておしまひ!

ドロミ (兄アンチフオラスに) 旦那、若し中へおはひりなされると、此「惡黨め」は酷い目に逢はされさうでございませ。

先刻からの問答を少し離れて聴いてゐたアンチエローはバルタ

一ザーに向つて

アンチ この鹽梅ぢや馳走も好意もなさうですねえ。どちらかに有つきたかつた

のですが。

バルタ

どつちにしたものかと評論したとゞの結局は、どつちにも有りつかない

で、おさらばになりさうですねえ。

ドロミ 旦那、みんな戸口にゐるんですよ。出て来て、迎へるとおつしやいまし。

アンチ どうも風向きがわる過ぎる、入つてゆかれさうにもないや。

ドロミ 何をおつしやるんですよ、旦那、薄着をしておいでなさるわけぢやあるま

いし。家内ぢや麵麩が温々してまさア、あなたが斯うして寒いとこに立

つておいでなさるのに。こんなに馬鹿にされちやア、人間が交接期の牡鹿

(猛獸) になりまさア。

アンチ 去つて、何か持つて来い。門を叩き破つてくれるから。

ドロミ (内て) 叩き破るなら、破れ、そんなことをすりや、其惡黨頭を叩き割つてくれ

るから。

兄 ドロミ 叩くにもいろくあらア、頬を叩くのは、根ッから差支へのないこッたぞ、たかゞ、息が出入りするんだ。それを面と向つて叩くか、蔭で叩くか、どちらかだ。

弟 ドロミ (丙で) おぬしやアよッほど撲かれない人間だと見えるな。えい、いッちまへ、百姓め!

兄 ドロミ さう、いッちまへくといはないで、おい、中へ入らせてくんなよ。

弟 ドロミ (丙で) うん、入れてやらう、翼のない鳥や鰭のない魚が目附かつたら。

兄 アンチ (こらへかれて) よし。破つて入らう。…おい、鐵挺か、鶴嘴を借りて来い。

兄 ドロミ 翼のない鶴を? とおつしやるんですか? 鰭のない魚はまだ居ないが、

翼のない鳥は目附かつた。若し鶴が役に立ちや、やつらを今に手も足も引きつるやうな目に逢はしてくれよう。

と行きかける。

バルタ

(止めて) まア、お待ちなさい。まアく! そんなをなさると、御自身の御體面に疵が附きますし、またお有りなさりもせんのに、何か御妻君に不しだらでもお有りかのやうに、疑惑を世間に醸します。といふのは、多年の御經驗で、お齡といひ、温厚さといひ、お聰明な貞女さんとお解りになつてゐる筈の御妻君が、斯ういふことをなさるには、何かあなたの御存じのない立派な理由があるだらうと自然に辯護したくなるわけですから。いや、必ずお分疏がありません、只今かやうに門を閉めて、あなたをお入れにならないのには。ま、手前の申す通りに、暫く御堪忍なすつて、一旦こゝをお引上げになつて、さうして御一しよに猛虎軒へ參つて、食事をいたしませう。さうして夕刻に、またお獨りでおいでになつて、此不思議な通せんぼの理由をお糺しになるがよろしい。此眞晝間の雜沓最中に、腕づくで破らうとなすつたりすると、其評判がぱつと立ちます、すると、俗衆は、

それを、あなたの今日までは更に怪我のなかつた名譽に、疵を附けるやうな鹽梅式に、捏ち上げてしまひます、さうしてそれがあなたの死後のお墓にまで居残るやうなことになります。誹謗は相繼承して、占取權を得たところに定住するものですから。

ア兄

お説御有理です。おとなしく引上げます、さうして癩癩をこらへて、愉快にやりませう。わたしの知り合ひに話上手の、小綺麗な、氣の利いた女があります。お轉婆ですが、しとやかでもあるです。あそこで食事をしませう。その女をば……妻が……決してさういはれる筈はないのですが……わたしと關係でもあるやうに思つて、折々やかましく罵つたものです。彼女のところで食事をしませう。(アンヤエローに)あなたは店へいつて、鎖を取つて来て下さい、もう出来上つた頃でせう。さうしてどうか豪猪軒へ持つて来て下さい、それが行く先の家ですから。あの鎖を……妻を

ア兄
ア兄
ア兄

くやしがらせさへすりやいゝから……あそここの女主に連れてやります。ねえ、急いでいつて下さい。自分の家が歓迎してくれないから、餘所を訪ねて見よう、やつぱり同様に冷遇されるか、どうかを試すために。では、後程、その家でお目にかゝりませう。さうして下さい……(傍白)此洒落には大分金がかゝるわい。

第二場 同 處

ルーシヤナと弟のアンチフォラスと出る。

ルーシ

まア、あなたは、御亭主の役目をまるでお忘れになつちまつたらしいわねえ！ アンチフォーラスさん、戀の春といふ頃にさへ、戀の芽はもう腐りますの？ 戀は、その建前の最中にすら、もう毀れますの？ よしんば姉と御結婚なすつたのは、財産の爲でおあんなすつたにせい、その財産の事をお思ひになつて、もつと姉を深切にしてやつて下さい。若し外にお好きな處がおありなら、内しよでいらつしやいよ。お盲さんのやうな風に、目をねぶつて、浮氣を包んで、目附で姉に肚を讀まれないやうになさいなねえ。御自分の恥を御自分の舌で御吹聴なさるなよ。やさしい顔をして、様子のいゝことをいつて、せめて體よく不實をなさいね。悪徳に美德の前驅者らしい衣裳を着せて、心はどんなに穢からうと、顔だけは綺麗にして、罪惡にも聖者らしい振舞をおさせなさいな。わるいとは内しよでなさいよ。姉に知らせる必要はないぢやありませんか？ どれぼうしたのを自慢す

るやつは、よッほど馬鹿などろぼうでせう？ 餘所で泊つていらしたことを、食事の時に、姉に見透されなさるなんかは二重の悪事よ。恥（になる事）も、取廻しがよけりや、變則の名譽になるけれど、悪い事に邪まな言葉が添ふと、悪事が二倍になりますの。あゝ、女は可哀さうなものよ！ すぐに眞に受けるんですから、せめて愛されてゐるとだけでも、信ぜさせておいて下さい。腕は他へお遣りでも、袖だけは見せて、下さい。わたしたちはあなた、ちのなさる通りに動くんですから。ねえ、兄さん、さうですから、もう一度奥へいらつしやいよ。姉を慰めて、元氣づけて、吾妻と呼んでやつて下さいね。少うしぐらゐ嘘を吐くのは神聖な遊戯ですわ、甘い、嬉しいお世辭で、すつかり争闘が治まるものなら。可愛いお嬢さん……といふより外には貴嬢の名は知らない、又どうしてわたしの名を不思議に御存じだかも知らないが……學問といひ、標致とい

弟
アンチ

ひ、あなたは此下界の偉觀といつてもさしつかへはない。下界の物以上に神聖なお方ですよ。ねえ、たとと教へて下さい、考へ方や物の言ひ方を。ねえ、あなたはどういふわけでお騙しになるんですか、此、脆い、浅い、弱い、種々の謬想の爲に窒息させられてゐるわたしの卑俗な心へ、其秘密の意味を打明けて知らして下さい。わたしの靈魂には、何等の偽り



もないのに、なぜあなたは、それをし
て無知の領域にさまよはしめようと
なさるのですか？ あなたは神さま
か何かで、わたしを造り直さうとな
さるんですか？ 造り直して下さ
い、決して逆らひません。けれども
わたしがわたしである以上、あの泣

いてゐるあなたのお姉さんは、わたしの妻ぢやありません。あれの寢床を奉ずる義務なんか、無論、ありません。彼女よりか、すつとその、すつとわたしはあなたが好きです。お、可愛らしいお人魚さん、その歌で以てわたしをお姉さんのあの涙の海の中へ誘き入れて、溺死者にならせようとして下さるな。ねえ、妖女さん、御自分の爲にお歌ひなさいよ、それならわたし惑溺しますよ。銀色の浪の上へ其金色の頭髪をおひろげなさい、わたしはそれを寢床にして臥ますよ。さうして、さういふ立派な想像をしつゝ、あゝ斯ういふ風の死方をすりや死んだはうがすつと有りがたいと思ひますよ。戀は軽いといふが、沈むか、沈まんか、ま、溺らして御覽なさい。

ルーシ
弟 アンチ
まア、あなたはお氣がちがつたの、そんなことをおつしやるのは？
いゝえ、氣はちがはないが、目がくらんだのです。どうしてだが分らな

い。

ルーシ そりや、お目のせゐでせう。

アンチ 太陽さん、あなたのすぐ傍にゐて、其お光りを見詰めてゐたからですよ。

ルーシ 御覽になるべき處を御覽なさいね、さうすりやすく治りませうよ。

アンチ だつて、眞黒な物(見だてのない物)を見てるのは目をねぶつてるのも同然で

すよ、此可愛い人。

ルーシ わたしを可愛い人といはないで、姉さんをさう呼んであげて下さいな。

アンチ いゝえ、お姉さんのお同胞をさう呼びます。

ルーシ そりや姉さんよ。

アンチ いゝえ、あなたさ、わたしにより、善なる半身の、わたしのい、はうの目、わ

たしにより大事なはうの心臓、わたしの滋養物、わたしの運命、わたしの大事の希望の目的、わたしの唯一の下界の天國、わたしの天國に於ける要求

物たるあなたさ。

ルーシ それはみんな姉の事です、でなくば、さうならなければならぬのです。

アンチ ねえ、そのお姉さんに君がおなりよ、よ、わたしは君が望みだ。わたしは

君を愛する、君と一生を共にしたい。君はまだ亭主がない、わたしにも妻

はない。……手を。

と握手しようとするのを振拂つて

ルーシ あれ、まア、まつて下さい。姉さんを呼んで来て、聞いて見ますから。

入る。

と家の内から弟のドロミオーが大あわてゝ顔色を變へて駈

け出して来る。

弟 アンチ おい、ドロミオー、どうしたんだ？ どこへ往くんだ、急いで？

弟 ドロミ もし、手前が分りますか？ 手前はドロミオーでせうか？ 手前は、お使

弟 アンチ ひなすつてた手前でせうか？
あゝ、ドロミーオーだよ、おれの使つてた汝だよ。

弟 ドロミ いゝえ、手前は驢馬です、ある女の使はれ者です、身が魂ひに添つちやゐません。

弟 アンチ 使はれる、どんな女に？ ど

弟 ドロミ うしてそんなになつたんだ？ さア、身が魂ひを離れました、ある女めが付き纏つて、手前はおれの物だ、どうしてもわが物にすると剛情に言ひ張り



ます。

弟 アンチ どんな風に言ひ張るのだ？

弟 ドロミ まるで、あなたが、これはおれの馬だとおつしやるのに似てをります。手前を獸類扱ひにします。いや、手前が獸類だからではございません、やつがまるで獸類のやうな女だから、しや、にむに手前を手に入れようとするのでございます。

弟 アンチ 何者だその女は？

弟 ドロミ とても立派な女です。憚りさまながらと申さないぢやア、うつかり噂も

弟 アンチ されないやうな、とても幅ツたい、立派な女です。彼女と夫婦になりや女運は薄いはうですが、女房縁は厚手だといへまさア。厚手な女房縁てのは何のことだ？

弟 ドロミ と申すのはです、その女は下婢で、肥満女です。だが、あの澤山の脂肪は、

石油に代用して、やつんとこから突ッ走る時の明りにでもする以外、別に役に立ちさうにもありません。着てる襪は蠟燭よろしくッて奴ですから、あれを点火しやア、ポーランドの一冬の用に足りませう。若し世界全滅日迄もあの女が生きてゐりやア、彼女だけは多分一週間も燃え残りませう。

弟 アンチ

どんな顔附(顔色)の女だ？
手前の靴よろしくて眞黒な面ですが、とても靴のやうに綺麗になつちやゐません。といふのは、汗をかかからず。垢がたまつて、踏み込みや靴が埋らうてんです。

弟 アンチ

水で洗はせたらよからうに。
どういたしまして。染み込んでゐます。ノアさんの洪水でも洗ひ切れ

弟 ドロミ

ませんや。
何といふ女だ？

弟 ドロミ

ネルといひます。其腰の廻りが、其名と其四分の三、すなはち *three* と四分の三(七尺餘)もあらうてイ女です。

three は三十七時餘。 *my* といふ名を一エル 即ち *my* へ引き掛けた洒落。

弟 アンチ

大ぶ幅ッたい女と見えるなう。
足から頭までの長は、胴や腰の幅ほどはありません。まるッこくて、地球

弟 ドロミ

のやうですから、體ぢうが世界の國づくしになつてゐます。
ぢや、アイルランドは其女の體のどの邊にある？

弟 アンチ

お尻にあります。沼があるんでわかりました。
ぢや、スコットランドは？

弟 ドロミ

あそこは不毛の地でイのでござんせう、すなはち掌でさ。
ぢや、フランスは？

弟 ドロミ 額です。ナヴァール家といふ髪を逆撫でに撫で附けようとしてるので分ります。

當時フランスには内訌があつて、ナヴァール家のアンリ四世といふのを君主にしようとした一派と其反對派が對立して相戦つた。女王エリザベスはアンリ四世に後援して一軍を一五九一年に佛國へ送つた。「逆撫で云々はナヴァールを正統派と見るイギリス人の見方を頭髪をオール・バック式に取りあげるのに比したのである。

弟 アンチ イギリスは？

弟 ドロミ さア、例の白堊崖はどこにあるかと捜しましたが、どこにも白いところは見えませんでした。しかし、多分、あの願がそれだらうかと思ひました、額のフランスと向ひあつて、其間に鹽っぱい水(鼻汁)が流れてゐましたから。

弟 アンチ スペインは？

弟 ドロミ 目には見えませんが、あの熱る息の邊だらうと心附きました。

弟 アンチ アメリカは、インド諸島は？

弟 ドロミ あゝ、そりや奴の鼻の上です、紅寶石や柘榴石や碧玉で飾り立てゝありますから、(雀斑や、黒子が一面ですから)熱る息のスペインめがそこへ目を附けて、大商船をさし向けました、そつくりそれを積み込もうてイので。

弟 アンチ ちや、ベルジャムは、低地國は？

弟 ドロミ そんな下の方までは調べませんでした。つまり、その下婢が、いや、或は千里眼かも知れませんが、手前の名を知つてゐて、おまひとは豫て約束がしてあるから、亭主だといひましてね、他は知らない筈の、手前の肩にどういふ痣があるの、頸に、左の腕に、黒子が、疣がと、まるで魔女のやうなんで、怖くなつて、逃げて來たんでございます。いや、此胸が燧石でなく、此心

臟が銅鐵でない以上、あのまゝあそこにあたら、手前をば尻尾のない犬に
變らせて、鐵串車を回廻させたかも知れません。

弟
アンチ

さア、汝はすぐに、大急ぎで本海道へ出る。風が濱から沖へと吹きさへす
りや、おれはもう此市にはをらん。どんな船でもいゝ、出さうだつたら、
市場へ來い、おれは汝の來るまで、あの邊をぶらついてゐるから。どいつ
もこいつもこちとらを知つてるのに、こつちはだアれも知らないやうな處
にやゐられない。急いで逃げ出さう。

弟
ドロミ

女房にならうといふあの女から逃げますのは、まるで命がけです、熊んと
こから逃げ出すて心持です。

はひ
入る。

弟
アンチ

こゝにや魔女ばかり住んでるらしい。だから、もう一時も猶豫は出來ん。
おれを亭主だといふあの女、おれを妻なぞとは、魂ひが慄へ上がる。だ

が、あの綺麗な、上品な妹、娘、すぐれた標致といひ、立居から、物ごし、全く
人を魅する力がある。で、つい、本心を失ひかけた。が、身を誤るやうな
ことをしてはならん。耳をふさいで、あの人魚めの歌を聞かないやうに
しよう。

アンチエローが金鎖を持つて出る。

アンチ

アンチフォーラスさま……

弟
アンチ

さやう、アンチフォーラスはわたしです。

弟
アンチ

そりやよく存じてをりますよ。もし、鎖はこれでございます。豪猪軒へ
持參する積りでございましたッけが、中々出來上りませんので、據ろなく
待つてをりました。

弟
アンチ

(鎖を受取つて、げんな顔をして) これをわたしにどうしろとおつしやるんで
すッ。

アンチ いかやうとも御意次第に。あなたの御入用にとて製へましたのでござい
ますから。

弟 アンチ え、わたしの入用に？ わたしや誂へやしませんよ。

アンチ 一度や二度ちやございませんよ、二十たびもお命じでございましたです
よ。持つてお歸りになりまして、御内儀をお喜ばせなさいまし。いつ
れ、お夕食ごろに伺ひまして、代金をいたゞぎます。

弟 アンチ ちや、代金は、今あげませう、でないと、鎖も金も又とあなたの手に入らな
いかも知れない。

アンチ (笑つて) ござやうだん者でいらつしやいます。 さよなら。
入る。

弟 アンチ (呆れて) どうしたといふのだ？ わからない。だが、こんな結構な鎖をく
れようといふのに、無下に拒絶するのも馬鹿らし過ぎるやうだ。こゝの者

は、暮すのに、何の遣り繰りも要らないと見える、街へ出さへすりや、他が
こんな結構なものをくれる。どれ、市場へいつて、ドロミオーの來るの
を待たう。船さへ出りや、すぐさま出立だ。
入る。

*
*
*
*
*
*
*
*

第四幕

第一場 街上

商人乙、アンチエロー井びに一警吏出る。

商乙 ねえ、五旬節までに支拂つて下さらなけりやならなかつたのですぜ、それをわたしは別段御催促もしなかつたのです。今だつて催促しようとは思はなかつたのですが、急にペルシャへ洋行することになつたので、金がいるのです。だから、すぐ拂つて下さらなけりや、此お役人を頼んで拘留して

貰ひますよ。

アンチ いや、ちやうどあなたからお借りしてゐるだけの金額を、わたしは、アンチフォーラスさんから受取ることになつてゐます。あの方のどこまで一しよに行つて下さいますれば、御返済をした上で、お禮をも申しませう。

エフエサスの兄アンチフォーラスと同じく兄のドロミーオーとが、娼婦の家で中食を濟して、こゝへ出てくる。

警吏 おいでなさるには及ばん。あそこへ見えました。

兄アンチ (兄ドロミーオーに) おれは金細工師へいつて来るから、きさまは其間に、繩ツ端を買つて来い。晝日中おれを閉め出しやアがつた返報に、それを妻や其同類にくれてやるから。……ちよと待て！ 金細工屋がある。……往け、きさまは。繩を買つて宅へ持つて来い。

兄ドロミ 一年一千ポンド相當てやつを買ひに行くのだ、繩を。

入る。

ドローミオーの語の意は「數千ポンドの借財も繩一筋を得て首を縊れば、フイになる」といふ意味の句が「シンペリン」中にあるが、或は同義かとも思はれるから、譯は其意を取つておいた。

兄

(かざり屋に) 當にならん人ですわねえ、あんたは。鎖を持つて、すぐに行くなんて約束しておきながら、おいでなさらない。え、鎖で繋がれちゃ腐れ縁になるとでも思つたんですか？

アンチ

御じやうだんは姑くと致しまして、え、これがお書き出しでございます。此鎖は、目方も極量、金の性も最上、細工も出来るだけ手間が掛けてございますので、手前が此(と商人へ思入れして)お方から借用してをります金高よりも、約三匁ほど以上になつてをります。どうぞすぐお拂ひ下さいまし、

此お方は御洋行なさるんですが、只そのお拂ひを待つておいでなのでございます。

兄

こゝには金を持つてませんよ。それに市に少々用があります。ねえ、どうか其方を宅まで御案内なすつて、鎖を妻に渡して、代價を支拂はせて下さい。多分わたしもその頃までに歸りませう。

アンチ

ぢや、鎖は御自身でお持ち歸り下さいませうか？

兄

いや、あんた持つてつて下さい、わたしは後れるかも知れんから。

アンチ

よろしい、承知しました。鎖はそこにお持ちですか？

兄

(げん顔して) わたしが持つてゐないとする、多分あんたが持つてるのだらう。でなきや代は受取れないことになるでせうから。

アンチ

あゝ、もし、じらさないで、鎖をお渡し下さいまし。風も潮もいと申すのに、いつまでも此方をお待たせしては、手前が濟みませんから。

兄 アンチ おや！ あゝ、あんたは、豪猪軒へ来ることを違約したのをごまかすために、とぼけるんですね。なぜ持つて来ないのだとわたしのはうからこそ苦情をいふべきなのに、それを悍婦のやうに、あんたのはうから食つてかかるんだね。

商乙 (アンヂエローに) 時間が経ちます。早くして下さい。

兄 アンチ あの通り厳しい催促です。…ねえ、鎖を！

兄 アンチ だからさ、妻へ渡して、代をお取りなさい。

兄 アンチ これさく。つい今、あなたにお渡し爲たばかりです。鎖でなくとも、

何か證據品を手前に渡して下さい。

兄 アンチ じやうだんもいゝ加減になさい！ 馬鹿々々しい。おい、鎖はどこにあるんです？ 見せて下さい。

商乙 用が迫つてるから、くづツかしちやゐられない。(兄アンチフォーラスに) もし、

否應の御返辭を承はりませう。否とおつしやれば、此男を(とアンヂエローに思入れをして) 役人へ引渡します。

兄 アンチ あなたに返辭を！ どういふ返辭をするのですか？

兄 アンチ あなたへお貸してある鎖の代金のことです。

兄 アンチ 鎖を受取らない以上、借りはありませんよ。

兄 アンチ つい、半時間前に、お渡し爲たぢやありませんか？

兄 アンチ 受取りやしませんよ。そんなことをおいひなさるのは、ひどい。

受取らんとおつしやるのは、なほひどい。手前の信用にかゝはるていとをお考へ下さい。

商乙 お役人、お訴へします、あの男を引ツ立て、下さい。

警吏 よろしい。上意ですぞ、尋常になさい。

兄 アンチ (兄アンチに) ねえ、手前の名譽にかゝはります。手前に代つて支拂つて下さ

らんけりや、此お役人に頼んで、あなたを拘引して貰ひますぜ。

兄 アンチ 受取りもしないものを支拂へ！ 馬鹿め、見事、拘引して見るがい。

兄 アンチ (警吏にはい、手数料です。(と若干の金を渡して)あの仁を拘引して下さい。

かうなりやア、かう公然に馬鹿にされちやア、兄弟だつて免しちやおかれな
い。

警吏 告訴によつて拘引しますぞ。

兄 アンチ (拒みかれて警吏に)ま、君の言ふまゝになつてゐよう、保釋金を渡すまで。……

(アンチエローに)おい、此わるじやれの支拂ひをするにや、おまひの店の有りッ
たけの金屬が要るぞッ。

兄 アンチ おい、此エフェサスには法律があります。今にお前さんに赤ッ恥を曝

させて見せる、大丈夫。

弟 ドロミ オーが 港から戻つて来る。

弟 ドロミ (兄アンチフオラスに) 旦那、エビダムナムの便船で、ちやうど船主が乗込み次

第に、すぐ出帆しようてのがございます。お荷物はもう甲板へ運んでお

きました。それから油も、香液も、焼酎も買ひました。船よそひはもう

済んで、いゝ風が愉快に陸から吹いてゐます。船主とあなたさへお出で

になりや、もうすぐ出ます。

兄 アンチ (呆れて)どうしたと？ 氣ちがひ！ エビダムナムのどんな船が待つてる

んだ、老碌羊めが？

弟 ドロミ 見て来いとおつしやいました其便船です。

兄 アンチ この酔ッばらひが！ 繩を取つて来いといつたんだ。何の爲かてイとも

言つたぢやないか？

弟 ドロミ なるほど、随分繩ッ端を取りにお遣はしでもございませう。けれども港

へは便船を見にお遣はしでございましたよ。

兄

(怒りをおさへて) 此事は、いづれ後で論判する。さうしてもつと注意して聴きやアがるやうに、其耳めに教へてくれる。やい、急いでアドリヤナのとこへ往つて、此鍵をわたして、トルコの綴れ織の覆せてある机に金貨の巾着があるから、それをよこすやうにいつてくれ。おれは街中で拘引されたといへ。あの金がありや、保釋になるから。急いでゆけ。早く往け。……さ、お役人、金が来るまでは牢へいつてゐよう。

弟 ドロミ

アドリヤナへ！ といふのは、中食をした家のこつた。あそこで、あのドロミサベル(田舎女)めがおれを亭主だと言ひ張りやアがつた。あいつは太過ぎておれにや抱き切れないや。いやだけれど、あそこへ往かんけりやならん、家來は主人の命令にや背かれぬから。

入る。

第二場 エフエサスのアンチフォーラスの家

アドリヤナとルーシヤナが出る。

アドリ

まア、ルーシヤナそんな風におまひを口説いて？ 眞氣だと思はれるやうな眞面目な目附でかい？ え、さう？ え、さうでない？ 赤い顔をして？ え、蒼い顔？ ふさいでましたか、又は浮かれてましたか？ 其時、おまひは、あの人の顔の上に閃いた内心の現象をば、どういふ風に観察しました？

ルーシ

先づねえ、あなたがあの方をば夫とおつしやる筈はないとおいひでしたの。

アドリ

そりやきツと何だらう、自分が夫らしくやさしくしてゐないからといふんだらう。それだから、わたし氣を揉むのさ。

ルーシ それから、自分は全くの他人だとおつしやつてよ。

アドリ それだけは眞實ね、平素は嘘つきだけれど。

ルーシ で、わたしあなたを辯護したの。

アドリ さうしたら、何てつたの？

ルーシ あなたを愛してあげて下さいってわたしがいふとね、それよりかわたしを愛して下さいとおいひなの。

アドリ え、どんな風のことをいつて口説いたの？

ルーシ あれが正當な申し込みなら、随分その感動しさうな言ひ方よ。先づね、わたしの標致を美めて、それから、話しッ振をも美めて。

アドリ (目に角を立て) おまひがやさしらしい物の言ひ方をしたんだらう？

ルーシ まアさ、氣を落ちつけてよ。

アドリ いゝえ、氣も體も落ちつけちゃゐられない。心は離れかけても、舌はあの

ルーシ

人を逃さない、言つてく言ひまくつてくれる。不具者の、脊骨まがり

の、顔も穢けりや五體は尙見ツともない、どこもかも不恰好な、不道德な、

粗暴な、愚鈍な、不深切な、體附も極印附きなら、心立は尙わるい羨び爺

め！

ルーシ そんな人なら妬くにも及ばないぢやないの？ いけない物がゐなくなつた

アドリ からって悲しがる人はないわよ。

あゝ！ でもやつぱり、今いつたやうにや思はれないわねえ、他人にさう

見えればいゝとは思ふけれど。鼻といふ鳥はずつと巢を離れて啼くとい

ふが、わたしも、口では咒つても、心では祈つてゐるのよ。

弟 ドロミ おどろと 弟ドロミオー出る。

おい！ 机！ 巾着！ 奥さんく。急いでく。

ルーシ まア、どうして、そんなに息を切つて？



弟 かく、かけて来たんですから。

アドリ 旦那はどこにゐなさるの？

弟 もうお歸りの時刻？

アドリ どうして、地獄以上です。牢へ

弟 お入りになりました、破れッこ

なしてイ革羽織を着た鬼に、鋼

鐵の釦で締め上げた、まるで石

のやうな心臓を有つてる、情け

容赦も荒鬼めに、夜叉めに、狼

めに、水牛の革を着た奴さんに

捉んなすつたんです。後ろか

らそつと来て、肩を叩く奴さん

に、小徑や小路や狭い露路に眼張つてる男に、わるい方角へと走つてゐながら、うまく嗅ぎ附ける獵犬どんに、みじめな手合をお裁き前に地獄へ落すお役人にとつつかまりなすつたんです。

アドリ まあ！ そりやどうしたてことなの？

弟 さ、どうしたことなのか知りませんが、とにかく旦那は引(弾)かれておい

でになりました。

アドリ え、引かれて？ だれが告訴したの？

弟 だれの告訴だかは知りませんが、水牛の革を着た獄卒さんが引ツ立てゝい

つたのは慥かです。奥さん、贖罪金を……お机の中にあるお金を……早

く、早くお送りなさいまし。

アドリ 妹、早く取ツといで。(ルーシヤナ入る)。ま、ほんとに、どうしてそんな、わた

しの知らない借りなんか、出来てたんだらう？ 何か證文を持つて来て、

拘引したのかい？

ドロミ 襜褕どころですか、それよりはすつと丈夫な鎖でさ、鎖でさ。……そら、鳴つてませう？

アドリ 何が、鎖が？

ドロミ い、え、鐘が。もう往かんけりやなりません。お別れした時は二時前でしたッけが、今一時を打つてゐます。

アドリ え、時間が逆戻りするの？ まア、聞いたことがない。

ドロミ 戻りますとも。時間だつて、警吏さんに逢や怖いから、元來たはうへ戻りまア。

アドリ まア、「時」が借り倒し家で、もあるやうに！ 馬鹿なとばかりいふわねえ、おまひは！

ドロミ 「時」てやつは常住身代限りばかりしてまして、決して其時相當の物なんか

供給しちやくれません。のみならず、盗賊でさ。よく申しませう、「時」は夜でも晝でも、こそくとやつて来るッて！ 「時」めが盗賊でもあり、借り倒しでもあつて、さうして途中で警吏さんに逢や、一日に一時間ぐらゐ逆戻りするの、何の不思議もありませんや！

ルーシヤナ 巾着を持って出る。

アドリ さ、ドローミオー、早く此お金を持つて、往ッといで。さうして旦那をすぐ連れておいで。……さ、妹、いろんなことが想像されて、胸が押し附けられるやうだわ。想像が慰めである時も、苦しみである時もある。入る。

第三場 街 上

弟のアンチフォーラスが出る。

弟

逢ふやつもく、みんなおれの名を知つてゐて、如何にも久しい知り合ひであるらしい挨拶をする。金をくれるやつもあれば、招待するやつもある、禮をいふやつもある、物を買つてくれといふやつもある。つい今も仕立屋がおれを店へ呼び込んで、おれの注文で買ったといふ絹を見せて、おれの體の寸尺まで取つた。こりやきツと幻術なんだらう、こゝにや例のラブランドの魔法つかひ共が住でるのだらう。

弟のドロミーオーが出る。

弟

へい、旦那、これが取つて来いとおつしやいましたお金です。おや、着換へ濟みのアダムさん生寫してイ人を追ッ拂つておしまひなさいましたね！

弟

金とは、どうした金だ？ アダムさんてのは何だ？ お樂園の番をしてたアダムさんちやありませんよ、牢の番をしてるアダムさんです。放蕩息子の爲に殺したて仔牛の革を着込んで、わるい精靈かなんかのやうに、そつと後ろからやつて来て、「おい、ちよいと来い」てなことをいふ奴さんでさ。

弟

わからないなア。

弟

わかりませんか？ わかり切つたことでき。取りも直さず、低音琴で琴でき、革袋にくるまつてますからね。疲勞れる人を見ると、肩を一つ叩いて、「ま、ちよいとおいで」と深切に言つたり、落ちぶれ者を見りや、氣の毒がつて、獄衣い（極佳い）てイ着物をくれたり、手柄をするのに、矛なんかでする

よりや、職挺で以てと肚を定めてゐる奴さんでさ。

弟 アンチ 警吏のことをいふのか？

弟 ドロミ へい、警察の役をする人です。契約を果さん者を引ッ立てに来る人です。

すてきに人なつツこくて、顔さへ見りや、だれにでも「ちよいとおいで」をいふ人です。

弟 アンチ 馬鹿ッ、もういゝ加減にじやうだんをよせ。今夜、どれか出る船がある

か？ 出立は出来るか？

弟 ドロミ もう一時間も前に申し上げたぢやありませんか、遠征號が今夜出ますッ

て？ すると、其途端に、警吏さんがやつて来て、當分延引號へお乗込みとなつたんでせう。……(巾着を出して)これが取つて来いとおつしやつた保釋金です。

弟 アンチ (半獨語的に)こいつめ氣がちがつてゐる。といふおれも怪しい。まるで

夢を見て、あるいてゐるやうだ。何神さまかのお助けで早くこゝを逃げ出したい！

兄 アンチ フォーラスの馴染の娼婦出る。

娼婦 あゝ、いゝとこで逢つたわね、アンチフォーラスさん。あら、かざり屋さん

にお會ひなのね。それなの、先刻わたしに下さるッてお約束なすつたのは？

弟 アンチ (睨んで)悪魔め、去ッちまへ！ やい、誘惑しやがるな！

弟 ドロミ え、旦那、あの姐さんは、悪魔なんでございませすか？

弟 アンチ うん、鬼だ。

弟 ドロミ いや、それ以上でせう、鬼のお袋でせう。だから、お尻の軽い女(淫婦)に化けて来たのです。だから、よく阿魔ッちよ共が言ひまささ、「わたい地獄に落ちてよ」ッて。といふのは、つまり「お尻の軽い女に成らされてよ」とい

ふのと同じです。書には、人間の目にはあかア、く光る天使に見える
あるさうですが、あかア、く光るのは火のせゐです、而うして火は燃える
ものですから、かるが故に、お尻の軽い女共は燃えています。傍へお寄りな
さいますな。

「*It is* をあか、い、軽いと二様に弄語するは沙翁の喜劇の常
套的詞辯である。「軽い女は燃えてゐる」とは賣春婦らの花
柳病に罹つてゐるのをいふ。」

娼婦

御家來もあなたも、大變に御上機嫌ですことーよ、一しよにいらつしや
いね。こゝでもう少しおいしい物を食べませうよ。

弟

旦那、いらつしやるなら、きつとお吸ひ物が出ますよ。長い匙を前以て御
用意なさいまし。

弟

なぜだ？

弟

だつて、「悪魔と會食するなら長い匙で」と申すぢやありませんか？

弟

(娼婦に)うぬ、去ッちまへ、悪魔め！何のために、一しよに食事を
するんだ？きさまもやッぱり魔法つかひだらう。えい、立ち去れ、去ッち
まへ。

娼婦

(ふくれて)食事の時にあげたあのわたしの指輪を下さい。でなきや、あの
ダイヤの代りに、約束なすつた鎖を下さいな。さうすりや、そんなに言は
なくつたつて、すぐ往くわよ。

弟

(弟アンチに)悪魔によつては、爪の切り屑をくれるの、蘭を一本くれるの、髪
を一筋、血を一滴し、留針を一本、胡桃を一箇、櫻實の核を一箇なんぞとい
ふつて言ひますが、あいつア慾が深ッくて、鎖をくれるといひまさ。旦那、
御用心なさいまし。鎖をおやんなさりや、やつめ、そいつを振廻して威か
しますよ、ギッ。

娼婦 ねえ、指輪を下さらなきや、鎖を下さいよ。よもやわたしを騙して、取らうッてのぢやないでせう。

弟 アンチ えい、去ッちまへ、魔女め！……さ、ドロミオー、ゆかうよ。

弟 ドロミ 孔雀の癖に「驕慢め翔べ！」ッてのはをかしいや。 姉さん、わかつたらう。

入る。

娼婦 (呆れて、見送つて) あゝ、きつと、アンチフォーラスさんは氣がちがつたのよ。

でなきや、あんな風のことをなさる筈がない。あの人の持つてったわたしの指輪は四十兩からのものだ。あの代りに鎖をくれる筈だつたのに、どつちもくれない。氣がちがつたのだと思ふ理由は、今のあの亂暴な素振ばかりぢやない、先刻、食事の時の、あの氣狂ひめいた話、家へ入らうとすると、戸が閉めてあつたといふのは、きつと、御内儀が、あの人の正氣でないのを知つて、わざと入れなかつたのに相違ない。かうしよう、これ

からあの人の家へ急いで往つて、御内儀に譯を話さう、わたしの許へ氣がちがつて飛び込んで来て、無理やりに、わたしの指輪を取つてゆきなすつたと。それが一等いゝ方法だ。四十兩も損をしちや大變なもの。
入る。

第四場 街 上

エフェサスの兄 アンチフォーラスと警吏と出る。

兄 アンチ 心配しなくつてもいゝよ、逃げやしないから。 拘引された以上、別れる段になりや、君の迷惑にならんやうに、それだけの保釋金を渡しますよ。だ

が、けふは妻の機嫌が大ぶ悪いのだから、容易に使ひの言ふことを信じないかも知れない。此エフェサスでわたしが取押へられたなんてことは、奇恠に聞えるにちがひないからねえ。……

兄のドロミオーが繩の端を持つて出る。

わたしの奴が来た。きつと金を持つて来たらう。……おい〜！ 取りやつたものを持つて来たか？

兄 ドロミ へい、これです。これさへありや、大丈夫、お支拂ひ（御返報）が出来ますよ。

兄 アンチ 金は何處にある？

兄 ドロミ お金は遣りましたよ、此繩の代に。

兄 アンチ 馬鹿ッ！ 五百兩の金を繩の代に？

警吏 （笑つて）もし、其割でなら、手前が五百筋ぐらゐは御用立てませう。

兄 アンチ ゆい、何の爲に、きさまを、大急ぎで使ひにやつた？

兄 ドロミ 繩ッ端を買ひにでき。その爲に歸つて来ました。

兄 アンチ うぬ、その爲に、かうしてくれる。

と撲つ。

警吏 （アンチフォオラスをとめて）まア〜、おこらへなさい。

兄 ドロミ こらへるのはこつちの役だ。今正に逆境といふんだから。

警吏 おい〜、口をきかないで。

兄 ドロミ おれの口を止めるよりも、旦那の手を止めて下さいよ。

兄 アンチ うぬ、へちやもくれの無神經野郎め！

兄 ドロミ あゝ、無神經野郎になりたい、さうしたら、かう撲たれても痛があるまい。

兄 アンチ 撲たれる時の外は、感じのないやつだ。だから驢馬だ。

兄 ドロミ なるほど、手前は驢馬ですよ。此長い耳でわかりませう。（警吏に）手前は

生れ落ちから只今まで、あの方に御奉公して來ましたが、只もうお撲ち下

さるのだけが下賜物なんですか。寒い時にや、撲つて温めて下さるし、熱い時にや、撲つて冷りとさせて下さるし、眠てりや、それで起きられる、腰掛けたりや、それで立たされる。それ使ひだといつては、戸口から叩き出される。へい、只今と歸ると、また一つ頂戴する。いや、おれの肩にや常住瘤がある、乞食女の載ッけてゐる餓鬼よろしくてイヤつが。これで、撲たれ撲たれて跛にでもなりや、その瘤を載ッけたまゝで、どうぞや一文を軒並にやらかすんだらう。

兄
アンチ

(此うち一方を見て、警吏に) さ、一しよに來て下さい。妻があそこへ來たから。

アドリヤナ、ルーシヤナ、先刻の娼婦、井びに學校の教師で悪魔調伏の呪法家を兼ねるピンチといふ老人が出る。

兄
ドロミ

(アドリヤナに) おかみさん、御警戒なさいまし、御用心なさいまし。で無きや鸚鵡ぢやないが、豫言しますよ、「繩ッ端の御用心」!

兄
アンチ

まだしやべりやアがるか?

と又撲つ。

娼婦

(アドリヤナに) どうですか? ごらんないね。お正氣ぢやアありますまい。

アドリ

なるほどねえ、あの亂暴さぢやア。ピンチ先生、あなたは呪法家でいらつしやるのですから、どうぞ夫を正氣に復らせて下さい、お禮はお望み通りにしますから。

ルーシ

まア、あの怖い、凄顔顔をなすつておいでなさること!

娼婦

御覽なさい、ま、あんなに慄へて。逆上せあがつておいでなさるのだわね。

ピンチ

(近寄つて、靜かに、仔細らしく) 手を出して、脈をお見せなさい。

兄
アンチ

(目を怒らせつゝ) さ。(と拳を固めて) 此手に、うぬの耳を診させてくれる。

と一つ撲つ。

ピンチ

(飛びのいて、切り口上で) おのれ、此男の體内に宿りをる悪魔め、わが神聖なる

祈願によつて、速かに退散なし、黒暗地獄へ罷り歸れ！ 天にまします衆
聖靈の御名によつて、汝を調伏する！

兄 アンチ だまれ、まぬけ魔法め！ おれや氣ちがひぢアない。

アドリ おゝ、おつしやる通りに、正氣であつたら！

兄 アンチ (アドリヤナを覗んで) おい、この連中がおまひさんの大事のお客さんか
い？ 此黄ばんだ面附の野郎めが、けふ俺の家で食つたり飲んだりして、

ふざけてゐたのか？ それを見られぢやならんといふので、戸を閉めて、
主人のおれを入れまいとしたのだな？

アドリ あら、あなたは、宅でわたしと一しよに、お食事をなすつたわね。今まで

どこをほつつきあるいてゐたんだらう、若しそんな不埒や不しだらがあつ
たとしたら、平氣で？

兄 アンチ 一しよに食事をした！…やい、(ドロミオーに) きさまはどう思ふ？

兄 ドロミ へい、全くのところ、お宅ぢや食りやしません。

兄 アンチ 戸に錠をおろして、入れなかつたらう？

兄 ドロミ へい、事實、錠をおろしになつて、お入れなさいませんでした。

兄 アンチ さうして彼女が自身でおれを悪口したらう？

兄 ドロミ へい、實際、御新造さんが悪口なさいました。

兄 アンチ 下女までがさんくく口ぎたないことをいつたらう？

兄 ドロミ へい、いかに。竈神の神子までが馬鹿にしました。

兄 アンチ で、おれが腹を立て、引き上げて來たらう？

兄 ドロミ へい、其通りで。其證據は此骨々に残つてをります、其後御立腹のお餘り
をいただきましたから。

アドリ (ピンチに) 間違ひ切つたことを申しますのに、何もかも「さやうく」と調子
を合せてゐてもようござんせうか？

ピンチ いや、御不都合はございますまい。あの仁は、御病人の氣分を心得てゐますよ、で、逆らはんやうにして機嫌を取つてゐます。

アンチ (アドリヤナに) きさまは、かざり屋と共謀になつて、おれを罪人にしやがつたな。

アドリ あら、まア！ わたしお金をあげましたわね、あなたを救ひ出すために、ここにゐる此ドロローミオーに持たせて、こいつが大急ぎで取りに來ましたから。

ドロミ 手前にお金を！ 定めしさういふ御好意はお有りなのでしたらう、けれども、旦那、お金は一文だつていただきやアしませんよ。

アンチ ちや、きさまは巾着を取りにや、往かなかつたのか？

アドリ 來ましたよ、だから渡したの。

ルーシ それはわたし證人になります。

ドロミ とんだこつた！ 神さまと繩屋が證人でさ、手前は只繩を買ひにいつたゞけです。

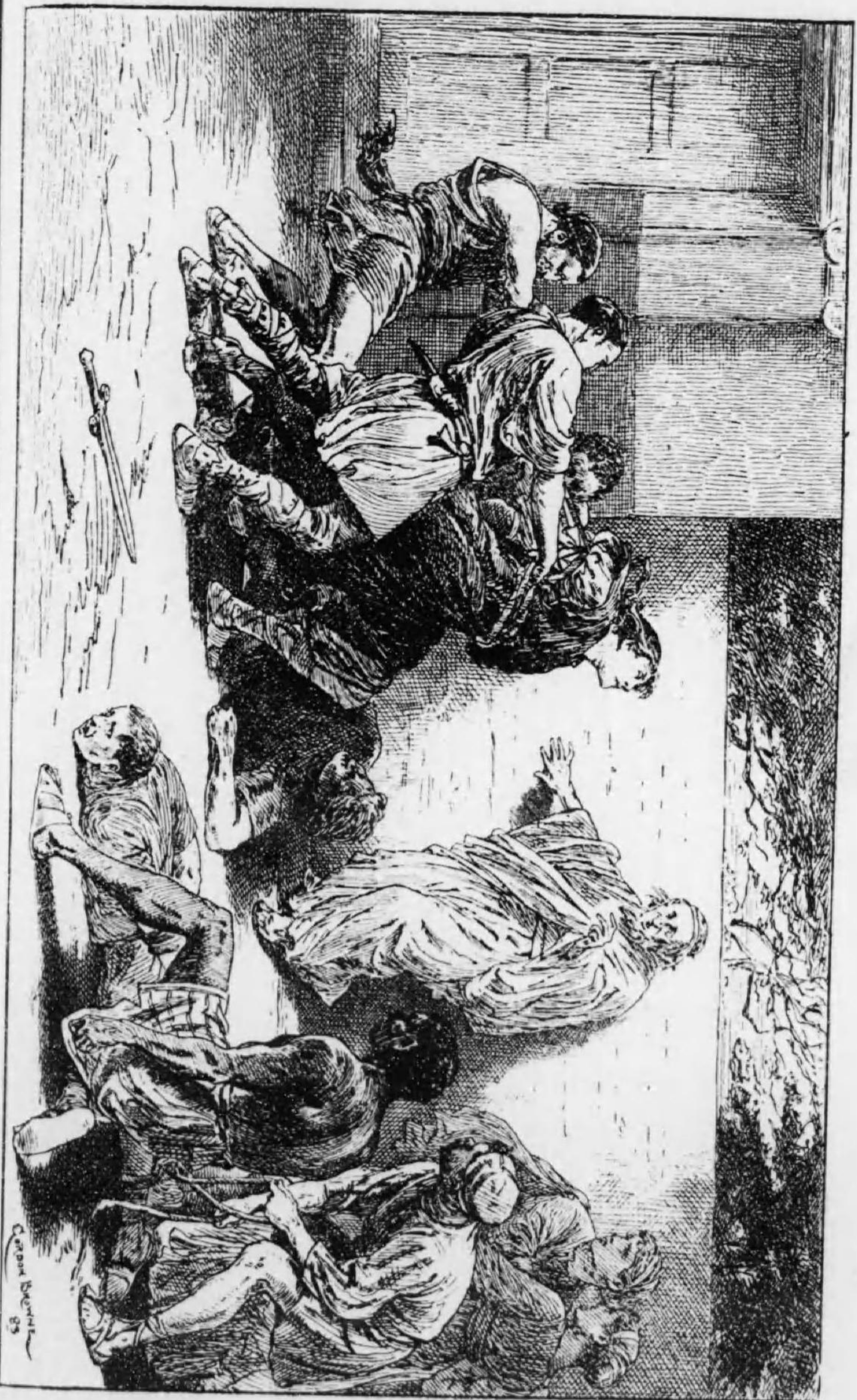
ピンチ 御新造さん、旦那もお召使ひも憑かれておいで、す。あの青ざめた死人のやうな顔色でわかりますよ。お二人とも縛つて、どこか暗い處へお入れなさらなけりやいけません。

アンチ おい、なぜ先刻おれを閉め出したのだ？ それから、なぜ巾着をよこさないのだ？

アドリ (わざとやさしく) ねえ、あなた、わたし決して閉め出したりなんかしやしませんのよ。

ドロミ (同じくわざとやさしく、口眞似して) ねえ、旦那、手前は決してお金なんかお受取りした覺えはありませんよ。けれども閉め出されたことはたしかです。

アドリ (怒つて) この嘘ツつき奴め！ どつちも大うそだ。



兄
アンチ

(怒って)この嘘つき阿魔め! きさまの言ふことはみんな嘘だ。うぬ、此畜生どもと共謀になつて、おれをさんざつばら馬鹿にして、赤ッ恥をかかせて、面白がつて見てゐようとしやがる。その嘘つき目玉を、うぬ、此爪で抉り取つてくれる。

と立ちかゝる。この途端、三四人の者がばら／＼と出て来て、アンチフォースを縛らうとする。立廻りになる。

アドリ

おゝ、縛つて下さい、縛つて下さい! 傍へ來させないやうにして下さい。

ピンチ

もつと誰れか來て下さい! 取ッ憑いてる悪魔が中々強いから。

ルーシ

あゝ、まア、お氣の毒な! 眞ッ蒼な、血の氣のない顔をなすつて!

兄
アンチ

(とう／＼縛られて)きさま達は、おれを殺さうとするのか? …おい、牢役人、おれは君の囚人だぜ。それなのに、こいつらに連れてゆかれて、平氣であるのか?

警吏 皆さん、お放しなさいよ。此人はわたしの囚人です。あなた達にお渡しするわけにはいかん。

ピンチ (ドローミガーを指さして) あの男も縛んなさい。あの男も気がちがつてゐる。皆々次ぎの問答の間にドローミガーを縛る。

アドリ (警吏に) まア、馬鹿らしいお役人さん、あんた連れてってどうしようといふの？ 惨めな病人が自分を害し苦めるやうなことをするのを、面白半分に見ようてんですか？

警吏 いや、囚人は手前の責任ですからね、若し逃せば、此人の負債を手前が支拂はんけりやならんことになります。

アドリ ちや、それをわたしが支拂ひませうよ、あんたにお別れする前に。債主のところへ、わたしを連れてって下さい。どういふ負債かてことが解りや、支拂ひますから。…先生、病人を間違ひのないやうに、宅まで連れてって

下さい。…あゝあゝ、何てまア情けない！

兄 アンチ あゝ、何てまア情けない不貞な女だらう！

兄 ドロミ (縛られて) 旦那、あなたのおかげで、此通り取結ばれました、約束をでなく、手を。

兄 アンチ 馬鹿ッ？ それなことを言やアがると、おれは気がちがひさうになる！

兄 ドロミ 科もないのに縛られたい時にや、気がちがひになつて、「悪魔がく！」と怒鳴るに限りませうよ。

ルーシ ほんとに、まア、お氣の毒な！ たはいもないことばツかし言つて！

アドリ さ、早く連れてって下さい。…妹、一しよにおいで。…
アドリヤナ、ルーシヤナ、警吏、娼婦だけ残りて、他は皆入る。

警吏 (警吏に) ねえ、だれが訴へて、夫は拘引されたんです？
かざり屋のアンチエローといふ男の訴へです。あの男を御存じですか？

アドリ はア、知つてます。金高は幾ら?

警吏 二百兩です。

アドリ で、それはどうした借りです?

警吏 お宅があのお仁からお求めになつた鎖の代です。

アドリ その鎖の事は聞いてやゐりましたが、品は受取りませんのよ。

娼婦

お宅のが、ひどく御立腹になつて、今日、手前どもへ入らつしやいました時

に、わたしの指輪をお持ち歸りになりましたつけが……その指輪は、つい

今、旦那の指に嵌つてゐるのを見ました……其後、すぐまた途中でお目

にかゝりましたら、鎖を慥かに持つてゐらつしやいました。

アドリ

さうかも知れないが、わたしは見えてゐません。……さ、牢役人さん、かざり屋へ連れてツて下さい。もつとくはしいことを知りたいから。

弟のアンチフオラスと弟のドロミオーが二人とも抜剣して駈

けて出る。

ルーシ

あら、まア！二人ながら繩を脱けたのよ。

アドリ

さうして抜刃を持つて来たわね。早くもつと人を呼んで、縛つて貰はな

くちやいけない。

警吏

早くお逃げなさい。殺されます!

皆逃げて入る。弟のアンチフオラスと弟のドロミオーだけ残

弟 アンチ 魔女でも劍は怖いと見える。

弟 ドロミ あなたの奥さんにならうてイ女も逃げていきましたね。

弟 アンチ

人馬館へ往つて、荷物を取つて来い。早く船へ乗り込んで、安心したい。

弟 ドロミ

いえ、まア、今晚はこゝにお泊りなさいまし。大丈夫、どういふわるさも致しやアしますまい。深切に話をしかけて、金までくれるんですもの。

のどの人に比べても、二とは下らん方です。手前はあの方のお言葉でな
ら、いつでも身代をつくりをお任せしようと思つてました。

商乙 (二方を見て) ま、ちよいと。…あそこへ来たのがあの人でせう。

弟のアンチフォーラスと弟のドローミオーが出る。

アンチ

さうです。しかも頸にあの鎖を掛けてゐます、あれほどおそろしく剛情
に受取らないと嘘をついてゐた鎖を。ねえ、すぐ傍においでなすつて下
さい、談じて見ますから。…アンチフォーラスさん、あなたは、どういふわ
けで、かうまで手前に不面目をさせ、迷惑をお掛けなさるのです、あなた御
自身の外聞にも係はりますよ、鎖は受取らないの、何のかんのと剛情に嘘
をおつきなさるのは。それ、そこに、ちやんと、露骨に掛けておいでなさ
る癖に。告訴されて、恥をかいて、牢へ入れられて、其上、この、手前のお
知り合ひの方に御迷惑をおかけなすつた。此かたは、こんな行違ひがな

けりや、けふ疾うに御出帆なさる筈だつたのが、今に落着を待つておいで
なさるんです。その鎖はわたしからお受取りでしたらう。え、さうでな
いといへますか？

弟 アンチ さ、あんたからのやうでした。受取らんなんてことは、一度も言やませ
んよ。

商乙 いゝや、おいひなすつた。決して受取らんと偽誓までなすつた。

弟 アンチ わたしがそんなことを言つたのを、だれが聞いてゐたと言ひました？

商乙 わたしが此耳で慥かに聞きました。(聞き直つて) きさまは何て惨めな悪黨
だ、苟も正直な人間の住んでる處をきさまのやうなやつが往來するとは殘
念なことだ。

弟 アンチ さういふ無禮な言ひが、りをするきさまこそ悪黨だ。かうなりや、きさ
まを相手にして、汚された面目を立てんけりやならん、見事きさまが相手

商乙 うん、相手になる、さうしてきさまを悪黨と呼んでくれる。

二人とも 劍を抜く。

此途端にアドリヤナ、ルーシヤナ、娼婦井びに他の大勢の者が出る。

アドリ

(二人の様子を見て、駭いて)ま、まつて下さい！ 後生です、其人を救して下さい、氣ちがひなんですから！……だれか早く手元へ飛び込んで、取りおさへて、劍を取りあげて下さい。ドロミオーも縛つて下さい。さうして二人とも宅へ擔いでいつて下さい。

大勢が立ちかゝる。

弟
ドロミ

(驚いて)旦那、おにげなさい、早く！ 早くどツかの家の中へお逃げなさい！ (と二人とも駈出しながら)あ、こゝに尼院がある。早くお入りなさい。

早く入らないと、駄目になツちまふ。

二人尼院内へ逃げ入る。皆々おツかけて来て、つゞいて門内へ入らうとする。と院主の尼(もとは、イーサオンの妻で、兩アンチフォオラスの實母)が出て来る。

院主

皆さん、静かになさい。どういふわけで、こんなに大勢で、押しかけて來なすつたのです？

アドリ

手前の夫が氣がちがひまして、只今、御門内へ逃げ込みましたのです。どうぞわたくしどもを、入らせて下さいまし、縛つて連れ歸つて、療治をさせますのでございますから。

アンチ

(初めて合點してこの商人に)さういやア、あんまり正氣らしくないと思つてゐました。

商乙

(うなづいて)今さら劍を抜いたのを後悔しますよ。

院主 (アドリヤナに) 憑き物がしてから、もう久しいのかい？

アドリ 此一週間は、とかくふさがちで、苦い顔をしてをりまして、平生とはずつとずつと異つた人のやうになつちやをりましたけれども、でも全然手の附けられないやうにあばれはじめましたのは、つい今日の晝過からでございます。

院主 貨物船が難船でもして、大損をしなすつたのぢやアないかい？ 大事のお友だちでもなくなつたのぢやアないかい？ 或は、不義の戀愛關係の爲かなんかで、心を痛めてゐたのぢやないかい？ 若い人達には、とかく目をくれてはならない方へ目をくれるといふ罪惡が、有りがちです。このうちのどれが、惱みの固でした？

アドリ そのどれでもないのですけれども、まア一等おしまひのでせうか？ と申すのは、夫に折々家をあげさせる女がありますのです。

院主 それなら、おまへさんが手強く異見をすればよいのに。
アドリ しましたとも。

院主 まだ手ぬるかつたのだらう。

アドリ いゝえ、女の慎みの許します限り、手きびしく申しましたの。

院主 そりやさし向ひの時ばかりだらう。

アドリ いゝえ、人の大勢をりましたところでも。

院主 でも、まだ足らなかつたのだらうよ。

アドリ いゝえ、二人で話をします時は、いつでも其事ばかりでした。床へ入りましても、それを言ひ立てないうちは寢させやしませんでした。食卓に向つても、それを言ひ立てないうちは、食べさせやしませんでした。二人ツきりの時でも、話題はいつもそれでしたし、大勢の中へ出た時にも、ちよいくそそれを當てッこするやうにしてゐました。しよつちうわたし申し

院主

てゐましたのです、卑劣だ、不道德だッて。

だから、御亭主の氣がちがつたのです。嫉妬ぶかい女の毒舌は狂犬の毒牙よりも怖ろしいほど有害だといひますからね。おまへが怒鳴るので、それで、先づ、睡眠が不足となつたのらしい。それが頭の憫となつた原因なのであらう。三度の食物にも小言で味を附けたとお言ひだつたが、食物は落ち附いて、心持よく食べないと、消化しません。消化しないと、逆上せて、くわつとなつて、熱が昂ぶる。熱が昂ぶるのは、取りも直さず、狂氣の發作です。おまへがやかましい爲に、心を慰める遊びをすることもなかつたらしいが、慰藉がないと、氣が重くなり、悒鬱になつて、世を味氣なく思ふあの物凄しい自暴自棄の緣者になります、と忽ち其後から青白い顔をした種々な病患といふ大敵が大掛りで押寄せて來て、命を取らうとします。食べ物や慰みや生を護る安眠が得られないと、人間でも、獸類で

ルーシ

も、氣がちがひます。だから、御亭主を氣ちがひにしたのは、つまり、おまへの嫉妬のせゐです。

姉は決して兄を荒々しく叱りはしませんでした、兄が亂暴なことをしました時でも。…姉さん、あんなお叱りを受けて、なぜいひわけをなさらないの？

アドリ

あゝ、いはれると、自分でも自分を叱りたくなるもの。…皆さん、入つてつて、宅を捉まへて下さい。

院主

いゝえ。一人だつて入ることを許しません。

アドリ

ちや、お召使ひの方にいひつけて、夫を出させて下さいまし。

院主

いや、それもありません。此聖院を隠れ場にしようとした人である以上、おまへたちへ引き渡すことは出来ません、わたしの力で、あの男を正氣にすることが出来るか出来んかを試さないうちは。

アドリ 傍にゐて、介抱をして、病氣の手當をしますのは、わたしの役です、代人に
させたくありません。ですから連れ歸らせて下さいまし。

院主 お待ち。決して歸しませんから。多年わたしが験した結構な藥劑や藥
液やお祈りの力で以て、あの男を眞人間に戻らせることが出来るか出来ん
かを試みた上でなければ。これはわたしの誓願の一部でもあり、此宗門
の慈悲の務めでもあります。だから、あの男を残しておいて、お歸り。

アドリ いゝえ、夫を残しておいては歸りません。お慈悲を第一の尼御さまが、夫
婦の仲をお裂きになつては、お不似合ひでございませう。

院主 安心してお歸り。わたすことは出来ませぬ。

ルーシ (アドリヤナに) ねえ、此無法を公爵さまへお訴へなさいな。

アドリ (決心して) さ、おいで。殿さまのお脚下に平伏して、泣いてく、願ひし
て、殿さまが御自身で、こゝまでお出で下すつて、宅の人を院主さんから取

商乙 り戻してやるとおつしやるまでは、わたし起つこつちやないから。

ルーシ お通ひなすつて、あの例の、陰氣な、悼ましい凹地へ御臨場になる筈です。
此院の濠のうしろのあの死刑場へ。

アンチ 何の爲にです?

商乙 シラキユースのある一商人が斬罪になるのを御検視の爲です、お國の法規
に背いて、こゝの港へ入つた不仕合せな老人です。

アンチ (二方を見て) あ、大勢見えました。ちや、其お處刑を見ませう。

ルーシ (アドリヤナに) お通り過ぎにならないうちに、早くお前へ往つて願ひなさ
い。

公爵が従者を大勢つれて出る。序幕の商人、イーザオンは、繩
附きて、何も冠らずに、従ふ、斬首役及び其他の役人と共に。



公爵

(從者に)もう一度あまねく
申し聞かせろ、彼れの爲
に贖罪金を支拂はうとい
ふ身寄りの者はないか、
それだけは容赦に及ぶ
から。

アドリ

(駈け寄つて、膝を突いて)公爵

公爵

さま、お裁きを願ひます、この院主さんが不正なことをなさいます！

アドリ

この院主は有徳の老人ぢや。不正を働く筈がない。
憚りさまながら、お聞き下さいませ、夫アンチフォーラスは、御嚴命によ
りまして、わたくしの夫とも主人ともいたしましたアンチフォーラスが、
不幸にも言語道斷の狂氣に取りつかれました、死物狂ひになつて、街中を

駈けあるきまして、それに奴隷の者までが、全く同様に氣がちがひまし
て……市の人達に迷惑を掛け、諸所の店へ飛び込み、指輪でも寶玉でも、何
でもかんでも氣ちがひ心に氣に入つたものは持つてゆくのでございます。
やつと一度取りおさへて宅へ送りつけまして、わたくしは夫があちこち
で働きました不法行爲の跡始末をいたさうとしてをりますと、すぐ又、ど
うあばれて脱け出しましたか、守らせておきました者の手を離れて、氣の
ちがつた下男と二人で、火のやうに怒つて、拔刃を持つて、やつて参りまし
て、わたくし共に斬つてかかりましたので、一旦逃げまして、只今また人手
をふやして、捉まへにまゐりましたのです。さうしますと、二人とも此尼
院へ逃げ込みました。で、おッかけて参りますと、院主さんが門を閉めて、
どうしても捕へさせて下さいません。また連れて歸りたいと申しまして
も、出して下さいません。ですから、公爵さま、どうぞ病人を外へ出しま

すやう、御命令遊ばして下さいませ、連れ歸りまして、療治をさせますので
ございますから。

公爵

もう大分以前の事だが、おまひの夫は戦役中に功勞があつた。で、わし
は、おまひに、彼れを夫としてよく仕へるなら、以後出来るだけの恩恵を施
さう、と君主としての約束をした筈だ。……こら、だれか往つて、尼院の門
を叩いて、院主に出て来いと言へ。此事を裁決した上で、餘事に及ばう。

アドリヤナの使つてゐる一僕があわたくしく出て来る。

僕

(アドリヤナに) お、御新造さん、御新造さん！ 早く逃げて、お助かりなさ
い。旦那と奴どんが繩脱けをして、一人々に婢たちを撲つて、先生を
ふん縛つて、薪の燃えさしで以て髭を焼いて、それが燃えると、そこへ泥水
を大手桶でぶっかけくしてお消しなされるんです。旦那が先生に、辛抱し
てろとお言ひなされる傍から、奴どんが鉄で以て先生の頭をちよきくやつ

アドリ

て、お童坊よろしくにしてゐます。すぐだれか助けにおやりなさいませ
んと、祈禱屋さんを二人で殺しつちまひますよ。

馬鹿ッ！ おだまり！ 旦那も奴もこゝにゐるわよ。いゝ加減なことを

お知らせでない。

僕

御新造さん、いゝえ、全くです。ろくく息もまだつかないくらゐでござ
います、それを見ましてから。旦那はあなたの名を怒鳴つて、見附次第、
お面を切りきざんで、不具者にしてやると誓言しておいでになります。……

此うち奥でけたましい叫び聲がする。

あれ、あれをお聞きなさいまし。早くお逃げなさいまし。

人々騒ぐ。アドリヤナ 姉妹おどつく。

公爵

(制して) おい、わしの傍へ来てゐな、怖れるには及ばん。……それ、矛で警護
せい！

アドリ (二方を見て) あゝ、宅のです！ あの通りでございませす、目に附かんうちに、あつちこつちと出あるくのです。つい今此尼院へ入れたばかりですのに、もうこゝへ出てゐます。人間の智慧ちやア考へ切れない！

エフェサスの兄のアンチフォーラスと兄のドロミーオーとが、出る。

兄 アンチ

(公爵の前に膝を突いて) 公爵殿下、御裁断下さいまし！ おゝ、御裁断下さいまし！ 數年以前、御前の爲に、亂軍中に身を以てお體を庇ひまして、お命を助けるために深手を負ひました。其時失ひました血を、功勞をおぼしめしまして、御裁断下さいまし。

イーチ

(傍白) 死刑のおそろしさに、此心が老けたのでなけりや、ありや慥かにアンチフォーラスだ、ドロミーオーだ。

兄 アンチ

殿さま、御裁断を願ひます、そこにゐる女は不埒者でございませす！ 手前

の妻にとて下し賜はりました其女めが、手前を嘲り辱めまして、激しい、甚しい害辱を興へました。實に想像以上の不埒を、臆面もなく、手前に對して働きをつたのでございませす。

公爵

其仔細を申せ。公平に裁断をして遣はすから。

兄 アンチ

先づ、本日、淫蕩なる者共と會飲いたしをりまして、手前が歸宅いたしましても、戸を閉ぢて、入れません。

公爵

それは不埒ぢや。女さういふことをいたしたか？

アドリ

いゝえ、そんなことはいたしやません。夫とわたくしと妹と、三人一しよに、今日の中食をいたしました。夫の申しますことは言ひが、りでございませす。若しもさうでございませんでしたら、御神罰を蒙ります。

ルーシ

姉の申し上げます通りでございませす、若しこれが間違ひでございませすら、もう日の目を見ません、もう夜も眠りません！

アランチ

(横合から) おゝ、よくもそんな偽誓を！… 此婦人たちは偽誓を申してをります。 氣ちがひさんの申すはうが事實でございませう。

アランチ

御前、手前は十分熟慮の上で、申し上げてをります。 酒の上でたはご事を申すのでもなく、又怒りの餘りに粗忽なことを申すのでもございませぬ、もつともかういふ侮辱を受けましては、手前よりも賢明な人とても、或は亂心いたさうかとも存ぜられますが。 此女は、本日、戸を閉ぢて手前に食事をさせませんでした。 そこにをります金細工師が、若し彼女と共謀でございませぬなら、證人に相成りませう、その場にをりましたのですから。 彼れは店へ歸りまして、鎖を取り、手前とバルターザーとが食事をしてをります豪猪軒へ持参する筈で別れました。 ところが、食後になつても参りませんので、手前が尋ねに出かけますと、途中で逢ひました。 其際彼れは此仁(と乙商人へ思入れ)と一しよでした。 と、あの金細工師の嘘ッつ

きめ、鎖はもう手前にわたしたなぞと、神も照覽あれ、見もいたしませんでしたのに、とうとう言ひがりを押し通して、牢役人に手前を捕へさせました。 手前は逆らひませんで、僕を宅へ遣はしました、若干の貨幣を取寄せますために。 ところが其使ひめが歸つて参りません。 で、お役人に懇談しまして、宅まで同道して貰ひました。 其途中で、妻、妻の妹並びに其一味の無頼漢どもに出逢ひましたが、其中にピンチと申す奴が加はつてをりました。 面も體も餓鬼のやうな、ほんの解剖用といふ、瘦ッばちの篤醫者、古ぼけた手品使ひの、占ひ屋の、素寒貧の、目の凹んだ、物凄、物ほしさうな半死の老骨の其惡黨めが、見事、憑き物を調伏し得ると自稱しまして、手前の目を見詰め、手前の脈を取り、面らしくもない面で、手前に恥面をかゝせまして、「こりや憑き物だ」とわめきましたので、忽ち一同が寄つてたかつて、手前を縛り、ひツかついで宅へ歸り、暗い、濕ッばい窖へ、奴をも

手前をも、縛つたまま、押込めました。その繩をやつと齒で噛み切り、體の自由を得て、すぐさま御前へ駆け附けました次第でございます。どうぞ此大恥辱、大屈辱に對して十分の償ひをお與へ下さいますやう、お願い申し上げます。

アンチ 御前さま、あの方がお宅で食事をなされませなんだこと及び閉め出されなされたことだけは、手前證人と相成ります。

公爵 だが、鎖とかはどうぢや？ わたしたか、わたさんか？

アンチ わたしました。先刻此院へ駆け込まれました時、その鎖が現に頸に掛かつてましたのを、皆さんが見ましたのです。

商乙 且つ又、手前も誓言いたします、たしかに此耳で聴きました、あなたが（とアンチフオーラスへ思入れ）此人から鎖を受け取つたとおつしやつたのを、最初市場では、受取らんとおいひなすつたツけが。それでわたしが劍を抜きま

した。すると、あなたは此院へ逃げ込みなすつた。どうしてそこから出て來なすつたかは、實に不思議だが。

アンチ 此院の中なんかへわたしや決して入りやしませんよ。あなたがわたしに對つて劍を抜いた、そんなこともありやしなかつた。鎖は見てもらやしない。とんだこつた！ そりや言ひがかりだ。

公爵 さて、どうもやゝこしい訴訟だ！ おまひたちはみんな魔女の毒酒に中てられてゐるのではないか！ こゝへ追ひ込んだのなら、こゝにゐなけりやならん筈だし、氣がちがつてゐるなら、今のやうにさう冷静に申し立てもしないだらうし、（女共へ思入れして）おまひたちは、宅で食事をしたといふし、その金細工師は、さうでないといふ。……こら（とドロミオーに）其方は、どう申すり。

ドロミ へい、旦那はそこにゐます女中（と娼婦へ思入れ）と一しよに豪猪軒で食事を

しました。

娼婦 さやうでございます。そしてわたしの箆めてゐた指輪を取つてゆかれま
した。

兄 アンチ 御前、それは事實でございます。これが彼女から取りました指輪でござ
います。

公爵 (娼婦に) 彼れが此院へ入るのをおまひは見えたか？

娼婦 へい、たしかに見ました。

公爵 はて、ふしぎぢや。…院主を呼んで来い。…おまひたちはみんな目がく
らんでゐるか、で無きや、氣がちがつてゐるらしい。

一 従者 院内へ入る。

兄 アンチ 公爵さまへ申し上げます、一言申すことをお許し下さいまし。手前の一
命を助けまするために、御定額を支拂ひくれまする身寄りの者がこゝにゐ

るかとも存じますから。

公爵 シラキュース人、遠慮なく申せ。

兄 アンチ (兄アンチフォーラスに) あんたの名はアンチフォーラスとはいひませんか？

兄 ドロミ そして其男はあんたの奴隷のドロミオーではありませんか？

兄 ドロミ さア、つい先刻までは縛られ男でありましたがね、有りがたいことに、旦那
が繩を噛み切つて下すつたので、今はもう縛られてゐない男衆のドロミ
オーでさ。

兄 アンチ ねえ、おまひさんたちは、わたしを憶ひ出すだらう。

兄 ドロミ 自分の事を憶ひ出しますよ、あんたの其姿を見ると、つい先刻までは縛ら
れてましたからね。あんたはピンチにやられたのぢやないでせう？

兄 アンチ 知らない仲らしい顔附をしてゐなさる。よく知つてゐる筈だよ。
今までに曾ぞ顔を合せたことはありませんよ。

イーチ おゝ！ 別れてから、心勞の月日が重なり、泣き悲しんでゐたゝめに、「時」めがわしの面を見ちがへるほど、變に不具にでもしをつたのだらう。でも聲に覚えがありさうなものだ。え、わからんかい？

アランチ わかりませんねえ。

イーチ ドロロミオー、きさまは？

ドロミ いゝえ、實際、わかりませんよ。

イーチ わからん筈はない。

ドロミ だつて、わからんですよ。 當人がわからんといつてるんでさ、それを信じないで法はないですよ。

イーチ 聲でもわからんか！ おゝ、「時」めの酷さ！ きさまは、それほどまでに、此たつた七年の間に、おれの此みじめな舌に、ひ々を入らせて、疵物にしてしまひをつたか、たつた一人の伴さへ、心勞のために調子ッばづれとなつ

た此弱々しい聲音をよう聞き分けんとは！ たとひわしの此皺面がこの血を枯らす嚴冬の寒におほはれ、此血管の悉くが冷え凍つても、夜となつた此命にもまだ幾らかの記憶は働く、消えかゝつた此ランプにもまだ幾らかの微光がある、此遠くなつた耳もまだ少しは聞える。その古い證人どもが知らせるのだ……間違ひッこはない……おまひは伴のアンチフォーラスに相違ない。

アランチ わたしはまだ曾ぞ父に逢つたことはないのです。

イーチ だつて、七年以前に、シラキユースの港で、おまひと別れたぢやアないか？

或は、おまひは、わしがこんな淺ましい姿になつてゐるので、親子だと名宣るのを恥ぢるのか？

アランチ 公爵さまをはじめ、此市でわたしを知つてゐる限りの人達が證人です、そんな筈はありません。わたしはまだシラキユースへ往つたことはありま

せんよ。

公爵 シラキエース人、わしはもう二十年間此アンチフォーラスの保護者であつたのだが、其間に、彼れはシラキエースへ往つたことはなかつた。老年の上、一命を失はうとしたため、氣がどうかしたのであらう。

此時院主の尼がシラキエースの弟アンチフォーラスと同じく弟ドロミオーを連れて出る。

院主 公爵さまに申し上げます、此男は非常な侮辱を蒙りましたのでございませう。

一同驚き呆れて弟のアンチフォーラスと弟のドロミオーを見守り、兄のそれらと見比べる。

アドリ ま、宅の人が二人！ それとも目がどうかしたのか！

公爵 二人のうち、一人は守り神であらう。そちらの二人も！ どちらが眞人

間で、どちらが精靈なのか？…だれか見分ける者はないか？

弟 ドロミオーは手前でございます。あいつを追ッ拂つて下さいまし。

兄 ドロミオーは手前でございます。どうぞこゝにをらせて下さいまし。

弟 アンチ (イーデオンを見て、驚いて) や、あなたはイーデオンぢやないか？ でなきや、幽

霊か？

弟 ドロミ (これもイーデオンを見附けて) おゝ、もとの旦那さま！ だれに縛られなすつた

のだらう？

院主 だれに縛られなされたにせい、わたしが其繩を解いて、夫を自由の身にならせませう。…イーデオンどの、若しあなたの妻にイミリヤといふ者があつて、一度期に二人の男の兒を生んだことがありましたなら、おゝ、若しあなたが其同じイーデオンどのなら、其同じイミリヤに御返辭をなすつて下さい！

イーチ　これが夢でなけりや、おまひはイミリヤだ。イミリヤなら、知らせて下さい、あの不幸な丸太で、おまひと一しよに流されていつたあの伴はどこにゐます？

院主　エビダムナムの人達に、彼れもわたしも、双子の片割れのドロミオーも、みんな救ひ上げられました。程もなくコリンズの粗暴な漁夫らの爲に伴とドロミオーをさらつてゆかれ、わたしだけエビダムナムの人達の間に取残されました。それから二人はどうなつたやら知りません。わたしは、今は、御覽の通りの身の上になつてゐます。

公爵　（獨語的に）彼れの今朝の話は、ちやうどそこから始まるのぢやな。あの二人の見紛ふやうなアンチフォーラス、あの二人の、まるで同じいドロミオー、其上、海で難船をしたといふあの女の話……あの男女が、偶然に廻り逢つたあの者共の兩親なのぢや。……アンチフォーラス、おまひは最初コリン

スから來たツけなう？

弟 アンチ　いゝえ、わたくしはシラキユースから參りました。

公爵　まで、もつと離れてをれ。紛らはしいから。

弟 アンチ　御前、コリンズから參りましたはわたくしでございます。

兄 ドロミ　その時手前も一しよに參りました。

弟 アンチ　御前の叔父御さまで、御勇名の非常に高くあらせられたメナフォン公の

伴をいたしてまゐつたのでございました。

弟 アドリ　けふわたしと一しよに食事をなすつたのは、どちらの方でした？

弟 アンチ　奥さん、わたしです。

弟 アドリ　あなたは宅の人でせう？

兄 アンチ　いゝえ。ちがふ。

弟 アンチ　さやう、ちがひます。けれどもあの婦人は、けふ、わたしを夫と呼び、また

あの妹だといふ美しい婦人も、わたしを兄と呼びました。(ルーシヤナに)ねえ、あの時、わたしがあなたにいつたことは、いづれ、改めて證明しますよ、この見たり聞いたりしたことが夢でなければ。

アンチ (弟アンチフォーラスに) もし、その鎖は手前がおわたしした鎖ですよ。

アンチ なるほど。あなたから受取つたやうです。

アンチ (アンチエローに) その鎖の事で、あなたがわたしを拘引させたんだ。

アンチ いかにも。あなたを拘引したやうです。

アドリ (兄アンチフォーラスに) わたしはあなたの爲に保釋金をドロミーオーに持たせて出しましたッけが、彼れは持つてゆかなかつたやうですね。

ドロミ 手前は決して持つちやゆきませんよ。

アンチ (巾着を出して見せて) 此貨幣嚢は、わたしがあなたから受取りました。わたしの僕のドロミーオーが持つて來たのです。……わかつた、わたしらは、め

いめいに、間ちがつた下男に逢ひ、下男共もまた始終わたしらを取違へてゐたのだ。そこで斯う間違ひつゞきになつたのだ。

アンチ (公爵に) あの貨幣を父の贖罪金の抵當に差出します。

公爵 それには及ばん。おまひの父の死刑を免ずることにする。

娼婦 (兄アンチフォーラスに) もし、あなた、そのダイヤを返して下さいまし。

アンチ さ、お取り。今日は御馳走でした。

院主 公爵さま、恐れ入りますが、わたくし共と御一しよに、院内へお成り下さいまして、なほくはしい身の上話をお聞き遊ばして下さいますやう。又、こゝにお集りの、今日の間違ひで、同じやうに、いろ／＼と御迷惑をなさいました皆さんも、どうぞお入り下さいまし、きつとお埋め合せをいたしませうから。……倅たち、三十三年の間、まるで難産をしてゐるやうな思ひでしたが、今となつて、やつと重荷をおろしました。……公爵さま、宅の人、二人

の子供たち、其二人の暦代りのおまひたちも、さ、どうぞこちらへ、心ばかりの祝宴を開きませう、祝盃をおあげなされて下さい、長い間の悲しさを昔語りにも。

公爵

喜んで其宴席に臨んで、愉快な話をしようよ。

二組の双子連だけを残して皆入る。

弟

(兄のアンチフォーラスに)旦那、船からお荷物を取つて来ませうか？

兄

ドロミーオー、どんな荷物を船へ持つてつた？

弟

あの人馬館の亭主にお預けなすつたお荷物です。

弟

(獨語的に)おれにいつてるのだ。…ドロミーオー、きさまの主人はおれだよ。…さ、さ、一しよに來い。それは後の事にしよう。ま、そこにある兄弟と抱き合つて、喜び合へ。

兄弟のアンチフォーラス入る。

兄弟のアンチフォーラス入る。

弟

(兄のドロミーオーに) あんたの旦那のところにや肥つたお女中があるねえ、けふ中食の時、おれをあんた々と思つて、ちやほやいつたよ。あの女中は、斯うなると、おれの姉さんだね、妻ぢやないや。

兄

あんたはおれの鏡だね、兄弟ぢやないや。君を見て察するに、おれも中々いゝ男だね。どれ、お祝ひの様子を見よう。さ、お入り。

弟

いや、ま、君から。君は兄さんだから。

兄

いや、そいつア疑問だよ。どうしたら定められるだらうなア？

弟

鬨で定めようよ。だが、ま、それまでは君が先きた。

兄

ちや、かうしよう。(と互ひに腕を組み



合せてうま生れた時からあに兄もおとうと弟もなかつたんだから、斯う手を組み合つてゆかうぜ、後あとも先さきもなしに。
入はいる。

*
*
*
*
*
*
*
*
*

間違つどき (完)

大正十五年七月八日印
大正十五年七月十一日發行

(製複許不)

附與「き」つ違問
錢拾五圓貳金價正

發行所

東京市牛込區
早稲田

早稲田大學出版部

(振替口座東京一三三三番)

譯者	東京市牛込區余丁町百十四番地
發行者	東京市牛込區辨天町百五十七番地
印刷者	東京市牛込區榎町七番地
坪内雄藏	種村宗八
	竹内喜太郎

(刷印社會式株印)



